

テハ稍其不都合アルヲ免レサルヲ以テ已ニ上奏請フ所アリ此ノ如キハ特別例外ト爲スモ已ムヲ得スト雖モ一般ノ地方ニ於テハ乃チ恰當ヲ得タルモノトス凡商業ヲ爲ス者ハ概シテ市街ニ住スルモノナリ然ルニ議員ヲ撰舉スルハ地租ノ納額ニ據ルヲ以テ村落ニ多クシテ市街ニ寡シ既ニ昨年ノ東京府會ノ情況ヲ見ルニ山ノ手ノ議員ハ橋梁瓦斯ノ費ヲ難シスル色アリ下町ノ議員ハ之ヲ設ケント欲スルノ情アリ故ニ村落ノ議員ハ地ヨリ生スル税ノ少ナキヲ冀ヒ市街ノ議員ハ營業税ノ多カラサルヲ欲ス是レ勢ノ已ムヲ得サルモノナリ是ヲ以テ地方税ノ制限ヲ府縣會ニ委任セハ營業者ハ其心ヲ安スル能ハサルヘシ況ヤ其制限アルカ爲メニ實際毫モ障碍アリタルヲ聞カサルニ於テヲヤ須ク原按ノ如クナラサルヘカラサルモノトス

○廿七番

楠本
正隆

本官等本按ヲ修正シテ其制限ヲ解キタルハ漫然タル

事爲ニアラス元來雜種ト云ヒ營業ト云フモ眞ニ其區別ヲ爲スハ難シ故ニ止ヲ得ス原按ニ依リタルナリ是其既ニ慣習トナリタルト實際ニ便ナルトヲ以テノ故ノミ又營業税雜種税ノ制限ハ之ヲ府縣會ニ委シ而シテ漁業税採藻税ハ之ニ任セサルノ理由ハ漁業採藻ハ數村落ニ跨連スルモノアリテ一己一人ノ課税トハ自ラ殊異ナルヲ以テナリ更ニ兩税ノ制限ヲ解キタル所以ヲ陳ンニ此兩税ハ所謂府縣税ノ改稱ナルニ因リ舊慣ニ基キ徵税セハ苦情起ラス新法ヲ以テセハ種々ノ苦情ヲ鳴サン是其商賈タルハ一ナルモ其貧富ニ至テハ全シカラサルヲ以テナリ故ニ其制限内ニテ之ヲ取舍スルニ止レハ往々不公平アリ其制限ハ人民ノ保護ニアラスシテ却テ苦情ヲ起スノ

具タラサルヲ得ス内閣委員ハ東京府云ヤト云フモ特ニ東京府ノミ
 ナラス各府縣其制限ナキヲ欲スルハ鏡ニ懸テ視ルカ如シ況ヤ府縣
 會ヲ設立シタル以上ハ該會ヲ信用セサルヘカラス既ニ之ヲ信用セ
 ハ其有害無益ノ制限ヲ解キ舉テ議會ニ任スルノ允當ナルヲヤ又況
 ヤ論者ノ言ノ如ク果シテ害アラハ其時ニ於テ之ヲ防クノ難キニ非
 サルニ於テヲヤ

○廿九番柴原和

八番ノ説ハ不可ナリ十一年第十八號布告第一條ニ府
 縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定
 ストアリ其制限ヲ立ツルト其徵收方法ヲ定ムルトハ密着セサルヘ
 カラス本官ハ戶數割ニモ亦其制限ナキヲ可トス蓋シ戶數割ノ如キ
 ハ概シテ協議上ヨリ成ルモノニシテ例ヘハ一村ノ戶數十五トセハ

先ツ其十五戶ノ課額ヲ定メ而シテ豪商若クハ豪農ハ數戶分ヲ負擔
 シ貧人ニハ全ク之ヲ除ク等率ヲ各地方現行ノ實況ニシテ其貧富ヲ
 分別シ必ス每戶ニ賦課シ其平等ヲ得ント望ムカ如キハ實際行フヘ
 カラサルコナリ且地租五分一以内ノ地方稅ヲ徵收スルモ甲縣ハ土
 地狹ク人口寡キモ地質肥沃ナルヲ以テ多ク之ヲ徵收シ乙縣ハ之ニ
 反シ土地廣漠人口衆多ナルモ其土地礫确ナルヲ以テ其收額ハ少シ
 然レモ其警察費堤防費ノ如キハ却テ甲縣ヨリ多キヲ要スルハ論ヲ
 待ス是レ行政上一般均一ノ制ヲ施行シ難キ所以ナリ是ヲ以テ營業
 稅等ノ制限ヲ解キ之ヲ府縣會ニ委セハ土地ノ實況ニ因リ人民ノ狀
 態ニ從ヒ寬苛ナク適當ノ賦課ヲ得ヘシ戶數割ノ如キモ亦然ラサル
 ヲ得ス故ニ曰ク八番ノ説ハ不可ナリト

○一番玉乃 世履 本官ハ營業雜種ノ區別ハ第十八號漁業稅採藻稅ノ項ニ至リテ之ヲ辯明セント欲スルニ因リ姑ク之ヲ閣キ先ツ制限ノ解カサルヘカラサル理由ヲ陳ヘン夫レ我租稅ノ法タル入ヲ量テ出スヲ爲スハ舊來ノ本則トス是レ有限ノ租稅ヲ以テ無限ノ用度ニ供セントスルモノニシテ今日ノ如クシハ決シテ出入相符セサルハ外國交際ノ一事ヲ見テモ知ルヘキノミ八番ハ租稅ノ本額ハ二分五厘ノ聖詔アリ然ラハ地方稅モ制限ナカル可ラスト論スト雖モ地方稅ヲ以テ其地方ノ費用ニ充ルヲ得サルハ之ヲ如何セハ可ナラン則チ之ヲ無制限ナル戶數割ニ依テ以テ補充セサルヲ得ス故ニ戶數割ニ就テハ世間往々苦情ヲ鳴ス者アリト雖モ其他ノ地方稅ハ悉ク制限アルヲ以テ不得止戶數割ニ依テ其不足ヲ補フヨリ外ナキナリ例ヘハ

三尺ノ棒ヲ懷中センニ右ノ袂ヨリ五寸ヲ出ス可ラスト制限セハ其餘ル所ハ左ニ出ルヤ知ルヘキナリ又一家三室ニ十五人ヲ入ントスルニ甲室ニ一人乙室ニ二人ト制限ヲ爲セハ餘ノ十二人ハ丙室ニ群居スルノ外他ナカラシ今營業雜種兩稅ニ制限ヲ立ルモ特リ戶數割ニ制限ナクハ到底營業稅雜種稅ニモ制限ナキト同シ此ノ如キハ寧ロ戶數割ト一般其制限ナキノ優レルニ如カサルナリ

○二番齋藤 利行 一番ノ駁論スル所ハ國稅ハ二分五厘地方稅ハ云々ト制限アリ然ルニ方今ハ外國交際ヲ始メ百般事業ノ爲スヘキアリ有限ノ稅額ヲ以テ無限ノ事業ヲ爲ス能ハスト云フニ在リ制限アレハ爲シ得可ラサルノコヲ爲サシムト云フハ其理ナキニアラスト雖モ之カ爲メ制限ヲ解クヘシト云フニ至テハ特リ之ニ左袒スル能ハサル

ノミナラス即チ其無制限ナル戸數割ニモ亦制限ヲ立ツヘシト云ハ
サルヘカラス何トナレハ他日國會ヲ開設シ而シテ出スヲ量リ入ル
ヲ爲スヲ以テ制度トスルニ至ラサレハ無制限ノ稅ハ決シテ爲ス可
ラサルモノトスレハナリ

○一番玉乃 本官ノ入ヲ量テ出スヲ爲スノ說ハ經濟ノ總體ニ就テ述
世履

ヘタルノミ地方稅ニ制限ヲ立ツルヲ不可トスル點ハ向ニ第三號議
按ニ就キ熱心之ヲ痛論シ二十四番ノ事件ノ字ヲ加フルノ說ヲ贊成
シタルヲ以テ知ルヘキナリ事件ヲ府縣會ニ議定シ其費用ヲ豫算シ
之カ徵收ヲ爲スハ即チ本按ナリ例ヘハ今一萬圓ノ經費ヲ要スルニ
方リ營業稅雜種稅ヲ以テセハ其制限アルニ因リ其徵額六千圓ニ止
ルトキハ其不足金ハ必ス無制限ナル戸數割ヨリ徵收セサルヲ得ス

是猶前陳一家三室ノ比喻ノ如シ到底無制限ナル丙一室ニ費用ノ幅
湊スルハ識者ヲ俟スシテ知ルヘキナリ二番ノ論辯稍其理アリト雖
モ道理ノ歸着スル所是ニ外ナラサルヲ以テ營業稅雜種兩稅ノ制限モ
亦之ヲ解クヲ可トス

○一番今村 戸數割ト雖モ固ヨリ其制限ヲ立ツヘキ者ナリ然レモ
外和郎

其性質不分明ナルヲ以テ今遽カニ之ヲ設タル能ハス且目今ノ狀況
ヲ以テモハ其制限ナキニヨリ却テ妙所アリ即チ營業稅雜種稅ニテ
貧富ノ平均ヲ得サルアルモ戸數割ヲ以テ之ヲ補充スルノ便アリハ
ナリ一番ハ營業稅雜種ノ兩稅ニ制限アルモ特リ戸數割ニ之レナキ庄
家經費ノ不足ハ必ス此ニ膨脹スルノ外ナシト言フト雖モ實際ニ就
テ之ヲ調査スルニ地價低賤ノ地方ハ止ムヲ得ス此ニ至ルヲ免レサ

ルモ此ノ如キハ僅々一二縣ニ過キサルナリ若シ論者ノ説ノ如ク營業雜種兩税ノ制限ヲ解ケハ延テ地租五分一以内ノ制限モ亦併セテ解カサレハ眞ノ平均ヲ得ヘカラサルナリ然レモ已ニ此制限アル上ハ營業雜種兩税ノ制限モ亦以テ存セサルヘカラス良シヤ此制限アルモ實際支障ナキニ之ヲ解クハ啻ニ其理ヲ解セサルノミナラス爲メニ將來民力ニ耐ヘサル大事業ヲ起スアルモ知ルヘカラサレハナリ原來事業ヲ爲スハ其力ヲ量リテ之ヲ爲シ其力足ラサレハ之ヲ爲サ、ルニ如カス且同ク修正委員ニシテ甲乙大ニ其論旨ヲ異ニス是レ蓋シ熟議未タ至ラサル故ナランカ賦税ハ人民ノ休戚ニ關スル者ナリ決シテ輕々ニ取捨スヘカラス仍テ原按ノ如クナランコトヲ希フ

○二十九番 柴原和 前説ノ不足ヲ補フ爲メ再ヒ之ヲ辯セン地租五分一

○以内ノ制限ハ必スナカルヘカラス若シ之レナクハ一錢ト雖モ出サ、ル者アルモ亦知ルヘカラス營業稅雜種稅ハ所謂前ノ縣稅ニシテ固ヨリ其制限無キ者ナリ故ニ之ヲ解クヲ可トス戶數割ノ賦課ニ至リテハ其公平ヲ得ルハ至難中ノ至難ト言フヘシ然レモ既ニ稅目ト爲シ法律ニ掲クル以上ハ已ムヲ得ス之ヲ課セサルヘカラス一番モ縷々論辯セシ如ク奈何セン營業稅雜種稅ニ制限アルヲ以テ之ヲ課セサラント欲スト雖モ得ヘカラサルコトヲ故ニ此兩税ノ制限ヲ解クハ決シテ不可ナシトス

○番 今村和郎 廿九番ハ務メテ戶數割ニ賦課スヘカラスト云フハ勤メテ營業稅雜種稅ノミ賦課スルノ目的ナルヘシ若シ此二税ノ制限ヲ解カハ地租五分一ノ制限モ併セテ解カサルヘカラス且廿九番ノ

説ノ如ク一方ニ偏重シテ之ヲ賦課セントスルノ精神トセハ課税ヲ
 議決スルニ方リ府縣會議員ハ商業者寡少ニシテ地租ヲ納ムル者多
 ○キヲ以テ營業者ハ何ニ依リテ能ク安堵ヲ爲スヘキヤ本按ハ甚々不
 可ナリ

○議長 時既ニ午時ニ至ルヲ以テ一應散會シ午後一時ヨリ開場スヘ

正午閉場

午後第一時五分開場

○議長 午前引續キノ會ヲ開ク

○廿九番 柴原和 内閣委員ハ本官ハ營業稅雜種稅ニ偏重ナラシメント

述シカ如ク駁スト雖モ決シテ否ラス其制限ヲ解キ之ヲ議會ニ委ス
 ルハ行政上止ムコトヲ得サルニ於テ之ニ賦課シ以テ便利ヲ圖
 ル爲メナリ地方稅ト改稱スルモ元來府縣稅ニシテ乃チ其制限ナキ
 モノナレハ其性質ハ之ヲ議會ノ決ニ任スルハ當然ノコトス又其議
 定ヲ爲ス者ハ營業者ニアラサルヲ以テ重課ノ弊アリト云ト雖モ是
 亦決シテ否ラス府縣會議員モ特ニ農ノミニアラス御賣商ヲ併業ス
 ル者等却テ多キニ居ル但料理屋待合茶屋遊船宿及煙草高等ノ如キ
 營業者ニ重課スルハ決シテ憂ウルニ足ラス是レ畢竟過慮ト言フハ

○番一 今村和郎 一方ニ制限アレハ一方ニ膨脹スト云フハ納其理アル

ニ似タリト雖モ營業稅雜種稅ノミ制限ヲ解キ地租五分一ノ制限ヲ

解カサルニ至テハ到底論旨ノ立サルモノタリ

○八番 細川潤次郎

本按ヲ保護スルノ説ハ營業稅雜種稅ニ不足アル時ハ
戶數割ヨリ之ヲ補フニ因リ其兩稅ノ制限ヲ解ケハ戶數割苛重ニ至
ラスト云フヲ以テ根基ト爲スカ如シ本官ノ所見ハ地方ノ事務ニ制
限アレハ本按ノ如クシテ可ナルモ今之レナキヲ以テ其支障スル金
額モ亦制限アルトナシ既ニ其事務ニ制限ナク又營業稅雜種稅ニ制
限ナクハ其底止スル所ヲ知ラサルヘシ故ニ兩稅ノ制限ヲ解クヲ不
可トスルナリ又戶數割ノミ制限ナキハ元來補助稅タルニ過キサル
ノ性質ナルヲ以テ金額ノ之ニ膨脹スルハ各地方ノ固ヨリ好ム所ニ
アラスト雖モ必竟地方ノ事務ハ其民力如何ニアルモノナレハ其堪
ヘサルニ於テハ或ハ伸縮スルモ止ムヲ得サルナリ其他猶止ムヲ

得サル費用アラハ更ニ協議費ヲ以テ之ヲ辨スヘシ斯ノ如クセハ始

メテ其適當ヲ得シカ故ニ正租五分一ト同ク營業稅雜種稅ニモ制限
アリ戶數割ニモ亦均ク之カ制限ヲ立ンコトヲ希望スルナリ若シ其制
限ヲ立テハ地方官ノ事務ハ舉クル能ハストノ説アルヘケレト設令
舉ラサルモ民力ノ耐ヘサルニ於テハ寧ロ之ヲ舉ケサルニ如カス蓋
シ其耐ルト不耐トヲ圖ラスシテ事ヲ起スハ理財ノ道ヲ知ラサル者
ノ所爲ナリ若シ此制限ヲ解カハ特リ之ヲ戶數割ニ膨脹スルノミナ
ラス其他ニモ大ナル膨脹ヲナシ殆ト底止スル所ヲ知ラサルニ至ラ
シ故ニ制限ヲ解クハ行政官ニハ便利ナルモ遂ニ其民力ノ足ラサル
ヲ奈何セン今全國ノ通貨一億三千萬圓ト假定シ之ヲ三千五百萬人
ニ配賦セハ人頭僅ニ四圓ナリ此内租稅ヲ扣除セハ剩ス所ハ漸ク貳

圓五十錢ニ過キス故ニ全ク之ヲ徵收スルモ其額ハ知ルヘキノミ思
 フテ此ニ至レハ決シテ大事業ハ興起スヘキ秋ニアラス是レ稅ニハ
 制限ヲ立ルヲ可トスル所以ナリ原來地租ハ論ヲ俟タス其他ノ稅額
 ト雖モ各國共ニ其制限アリ而シテ其制限内ヲ以テ之ヲ徵收スルモ
 ノナリ例ヘハ地方ノ徵收金額ハ地租營業稅雜種稅ヲ合セテ百圓ナ
 リトスレハ此額内ヲ以テ其事業ヲ爲スニ肯テ妨ナシト雖モ若シ本
 按ノ如ク制限ナクシテハ事業ノ爲メニ終ニハ無量ノ租額ヲ徵收スル
 ニ至ルモ保ツヘカラス故ニ之ヲ解クハ理性共ニ然ラサルモノト
 ス

○廿七番楠木正隆 本條ニ賦稅ノ制限ヲ解カサル可ラサルノ理由ハ例ヘ
 ハ一圓ヲ徵收シテ足レリトスルモ其制限アレハ終ニ極度マテ徵收

スルニ至ルハ實際免レ難キ所ナリ今之ヲ解カハ十五圓ノ極度ハ酷
 ナリ之ヲ五圓トナスヘシ五圓モ尙酷ナリトモ更ニ之ヲ一圓トシ
 又或ハ半圓ト爲スヲ得ヘシ夫レ府縣會議ハ地方ノ民力ヲ量リ其經
 濟ヲ維持スルノ責任ナリ然ルニ民力ヲ量タス過重ノ稅ヲ取ルモ妨
 ナシトスルカ如キ理由ハ万々之アルコトナシ故ニ其制限ハ之ヲ設ク
 ルヲ要セス向ニ內閣委員ハ東京府ノミ特別ヲ以テ此制限ヲ解クノ
 議アラント述ルト雖モ果シテ然ラハ何ソ獨リ東京府ノミニ限ラン
 ヤ他ノ府縣モ亦齊ク之ヲ解テ可ナリ或議官ハ今制限ヲ解カハ戶數
 割ヲ止メテ多ク營業稅雜種稅ヲ課スヘシト言フト雖モ是又否ラス
 例ヘハ此ニ十五圓ト制限ヲ立レハ貧富ヲ問ハス巨賈行商共ニ其賦
 課ヲ同フス此ノ如キハ獨リ東京府下ノミニアラス各地方比々トシ

テ皆然リ本官曾テ乏キヲ地方長官ニ承ルノ日戸數割ヲ廢シ營業稅
 雜種稅ノ制限ヲ解ク可シ若シ否ヲサレハ之ヲ國稅ニ課ス可シト熱
 心政府ニ要請セシモ議終ニ行ハレス爾後實施スルニ方リ果シテ各
 地方ニ苦情多シト聞ケリ此ノ如キ理由アルヲ以テ本按ノ如ク營雜
 兩稅ノ制限ヲ解キ一ハ以テ戸數割ノ偏重ヲ防キ一ハ以テ營業者等
 ニ課稅ノ平等ヲ得セシメント欲スルナリ

○一番^{玉乃} ^{世履} 本官等ノ制限ヲ刪リタル理由ハタトヒ其一方ニ増スモ
 一方ハ減シ遂ニ貧富ヲ平均スルノ意ナリ八番ノ論スル所ハ今倘シ
 制限ヲ解カハ施政者ノ所見ニ依テ稅額ヲ増減スルヲ得ルヲ以テ其
 多キハ如何ナル點ニ達スルヤモ知ルヘカラス故ニ之ヲ恐ル、ト云
 フニ在リ本官惟ヘラク此ノ如キ顧慮ハ決テ其要セサルモノトセリ

例ヘハ明治十四年度地方稅ノ金額ヲ定メントセハ先ツ其事件ヲ定
 ムルニアラサレハ豫算ヲ立ルコ能ハス事件ヲ定メスシテ其費額ヲ
 定ムルコハ萬得ヘカラサルヘシ已ニ事件ヲ定メ而シテ豫算ヲ立ツ
 何ツ其レ制限ノ解否ニ關センヤ之ニ反シ制限アルノ不可ナル所以
 ハ此ニ本按ニ會社トアルモ二三ノ貧商ヨリ成立スル會社アリ第一
 國立銀行ノ如キモノアリテ甲ノ純益ハ僅ニ八九分ニ止マルモ乙ハ
 一割二分以上ニ上ル又米商會社ノ如キモノアリ彼ノ第一國立銀行
 ノ株券ハ之ヲ賣買スルニ其價百三十圓前後ニ居リ而シテ米商會社
 ノ株券ハ六百圓乃至八百圓ニ上ルニアラスヤ然ルニ此三個ノ會社
 ヲ比較シ其平均ヲ取り其賦課金ヲ定ムルニ方リ最上點ハ十五圓最
 下點ハ一圓トスルモ猶且平均ヲ得タリト言フヘカラス故ニ此ノ如

キ場合ニ於テモ其制限ヲ解キ置クトキハ其大小ノ利益ニヨリ或ハ最上點ヲ百圓乃至百五十圓トシ最下點ヲ一圓又ハ五十錢トナスモ肯テ妨ケナク以テ綿密配賦スルノ法トセハ即チ其平均ヲ得ルヤ明カナリ仍テ制限ハ解カサル可ラストス

○八番 細川潤次郎

一 一番ノ論辯ニヨリ本官ノ惑ヒ滋甚シキヲ致セリ其說ニ曰ク多ク課税スルニアラス貧富ヲ平均シテ適當ヲ得セシムル爲ナリト論者ハ已ニ此精神ヲ以テ修正セシナルヘシト雖モ若シ之ヲ平均セハタトヒ増税ニ往クモ減税ニ至ルコトハ斷シテ見出ヌ能ハサルナリ厘々一家ノコタルモ逐年費用ノ増加スルハ古今ノ常習ニシテ固ヨリ免レサル所ナルニ況テヤ一國ノ理財ニ於ル其税ヲ減スルハ到底爲ス可ラスシテ勢ヒ増加セサル可ラサルモノナリ然ルニ茲

ニ地方官タル者其十二費目中ノ事業ヲ施サントスルニ當リ地租ハ素ヨリ營業稅雜種稅モ共ニ皆制限アリ戸數割ハ只補助稅ニシテ決テ本稅ヨリ増加スヘカラスト束縛ヲ爲セハ或ハ太々究屈ナルカ如シト雖モ其究屈内ニ於テ事ヲ施スハ乃チ其職掌ナリ故ニ務メテ之ヲ究屈ニ爲ルヲ以テ可ナリトス然ルヲ之一變シテ營雜兩稅ノ制限ヲ解クニ於テハ人民ハ必ス是節儉ノ爲ニアラスシテ即チ收斂ノ法律ナリト言フ可シ我國ノ貧弱ナルハ前ニ既ニ陳セシ如ク若シ之カ制限ヲ解キ以テ課稅スルニ至ラハ恐クハ民力ノ堪フル所ニ非サラン試ニ商賈ノ地位ニアリテ思想ヲ下スニ已ニ制限アレハ假令其課稅ハ苛酷ナリトスルモ其最極點ヲ明示セルヲ以テ大ニ其業ニ安ス可キモ若シ之ナクハ其底止スル所ヲ知ラサルヲ以テ恐懼ノ念

ヲ懷キ其業ニ安ンセサルハ知ルヘキノミ法律ハ人民ヲシテ安心セ
シムルノ器具タリ然ルニ之ヲシテ不安ヲ懷カシムルニ至テハ其大
害ヲ生スルハ必然ナリ且若シ制限ヲ刪ラハ第十八號布告第一條ヲ
モ併セ刪ヲサルヲ得サルニ至ラン此ノ如キ不都合アルヲ以テ本按
ハ之ヲ廢棄ス可シトス

○議長 議長ハ本條ニ就キ所見ヲ陳述セント欲スルニヨリ成規ニヨ
リ本席ヲ十八番ニ保タシメントス

記者云十八番東久世通禧議長ノ席ニ就キ議長山口尙芳ハ退テ廿四番
マノ自席ニ就ク

○二十四番山口尙芳 本官ハ本按ニモ八番ニモ同意スルコト能ハス請フ其
理由ヲ陳セン八番ハ大政府ノ最モ注意ス可キハ税法ナリ故ニ其制

限ヲ府縣會ノ決議ニ委任スルハ不可ナリト云フ是理ノ當ニ然ルヘキ
所トス原來國會ノ設ケアル國ニ於テモ帝王及ヒ上下兩院協議ノ上
始メテ其稅額ハ定ムルモノナリ何トナレハ政府ハ人民ノ幸福ヲ保
護スルモノニシテ課稅ノ權ハ其最モ大切ナルモノナレハナリ故ニ
之ヲ府縣ノ議會ニ委任スルヲ不可トスルノ點ハ八番ニ同意ナリ之
ト反シテ修正委員ノ論旨ヲ玩味スレハ戶數割ニ制限ナシ故ニ本按
ノ制限モ亦解ヲ可トス且府縣會ハ不都合ナル議定ヲ爲サルモノ
ナリト言フノ外ニ出ス然レモ戶數割モ亦其制限ナカルヘカヲサル
ハ論ヲ待タス且府縣會ハ決シテ不都合ナルコトヲ爲サスト言フハ素
ヨリ信シ難シ夫レ十一年第十八號布告第三十三條ニ會議ノ論說國
ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯ス云々トアルハ何ノ爲メニ此

法律ヲ設ケタルヤ是府縣會ニ於テ其事ナキヲ保チ難キカ故ナラス
 ヤ今我府知事縣令ハ政府ノ信任スル所ニシテ府縣會ノ議員ハ府縣
 人民ノ信任シタルモノナレハ或ハ其不都合ハナカル可シト雖モ凡
 事ヲ慮ルハ眼前ノ事ニテアラス最モ遠慮スヘキモノトス是此法律ノ
 設ケアル所以ナリ斯ク論シ來レハ此營業稅雜種稅ノ如キモ嚴ニ制
 限ナカル可ラサルハ自ラ明了ナルヘシ畢竟論者ノ旨意ハ戶數割ニ
 制限ナキヲ以テ營業稅雜種稅ノ制モ併セ解クヘシト云フニ過キス
 然ルモ本官ハ營業稅雜種稅ハ勿論其戶數割ニモ皆制限ナカルヘカ
 ラスト思惟スルヲ以テ甲乙折中シテ之ヲ修正シ營業稅雜種稅トモ
 ニ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事縣令ヨリ內務卿ヘ具狀シ政府ノ裁可
 ヲ受クヘシトセントス仍テ八番ヲ說消滅セハ之ヲ提出セン爲メ

ニ豫メ其大意ヲ述フルナリ其戶數割ニ至テハ素是問題外ノモノナ
 レハ別段ノ建議ヲ以テ之ニ但書ヲ加ヘントス蓋シ大政府ニテ遽カ
 ニ此制限ヲ設ケントスルモ各地方殊異ノ狀態アルヲ以テ四表八隅
 共ニ一様ニ爲スヲ得ス仍テ本官ハ之ヲ府縣會ニ委シ各地ノ如何
 ヲ折中シ以テ其制限ヲ定メシメント欲スルナリ且第三十九號布告
 第三條ニハ漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣習ニ依リ之ヲ徵收スヘシ
 云々トシテ之ヲ府縣會ニ任スルヲ須ヒス一之ヲ推スモ本按ノ如ク
 兩稅ノ制限ヲ解クヘキモノニアラサルハ得テ知ル可キノミ是本官
 ノ本按ヲ不備トシ又止ヲ得ス八番ノ說ニ同意セサル所以ナリ

記者云此論辯終リテ二十四番ハ議長席ニ十八番ハ本席ニ復ス

○八番細川潤次郎決議ノ前ニ方リ更ニ一言セントス若シ夫本按ノ如ク

制限ヲ解キ舉テ府縣會ニ委任スト爲サハ府縣會ハ必ス其課税ノ立
 按ニ困却ズヘシ元來税ハ各人ノ負擔スヘキモノニシテ其平均ヲ欲
 スルハ固ヨリ其所ナリト雖モ其得ヘカラサルハ古來經濟家ノ難ン
 スル所ナリ然ルニ之ヲ府縣會ニ委スルトセハ該會ハ其適當ヲ得ル
 ニ困難ナルハ論ナク假リニ善ク之ヲ議定シ得ルト爲スモ内務卿ハ
 其多寡過不及如何ヲ知ルニ由ナク到底依然制限ナキト一般ナリ若
 シ現行ノ制限ヲ不可トセハ素ヨリ十五圓ニ止マラス漸ヲ追テ四十
 圓若クハ五十圓ト爲スモ寧ロ妨ケナカラシテ理事者ハ宜ク其
 制限内ニ於テ融通處辨スヘシ今一方ニ膨脹スルヲ恐レテ營業稅雜
 種稅ノ制限ヲ全廢スヘシト言フハ所謂噎ヲ惡ンテ食ヲ廢シ蹶ヲ嫌
 フテ歩ヲ止ムルカ如シ

○番一

今村和郎

或論者ハ今兩税ニ制限アレハ戶數割ニ膨脹スルヲ以

テ之ヲ解クヘシト云然ルニ現行ノ法律ハ營業稅ヲ第一第二第三ノ
 三個ニ類別スルモ本按ハ概シテ之ヲ一類トシ五圓ノモノハ十圓十
 圓ハ十五圓トセリ已ニ營業稅ノ額ハ増加シタルモノナレハ其戶數
 割ニノミ膨脹スルノ憂ハナカルヘシ

○八番

細川潤次郎

特別ノ建議ヲ爲ス現今刑法ノ修正其迅速ヲ要スルカ

爲メ該委員五名其他所勞等ニテ數名ノ欠席アリテ本場ニ臨ムモノ
 僅ニ十三名ナリ成規ニヨリ多數ニ決スト云フモ猶七名ノ少數ニ過
 キス此ノ如キ寥々タル人員ヲ以テ至重至大ノ法按ヲ議シ直ニ之カ
 可否ヲ決スルハ天下人民ノ爲メニ太々憾ム所ナリ仍テ決議ヲ明日
 ニ延ヘ刑法修正ノ委員ヲモ招集センコトヲ希望ス

○三番齋藤利行 八番ノ建議ヲ賛成ス僅々十三名ノ内三名ハ本按ノ修正委員ニシテ其餘八十名ノミ人民ノ幸福ヲ望マントセハ務メテ衆論ニ歸スルヲ可トス仍テ決議ヲ明日ニ延ハスハ允當トス

○廿九番柴原和 八番ノ建言ハ不可ナリ議員三分一以上出席セハ會議ヲ開クハ本院成規ノ存スル所ナリ已ニ今日ハ之ニ據テ開會シタレハ又之ニ從テ其決ヲ取ル何ノ不可カ之アラシ若シ轉延明日トセハ更ニ又各自ノ所見ヲ述ヘサルヲ得ス是必竟贅議ト云ヘシ仮令十三名ハ多數ナラサルモ是亦成規ニ適フモノナレハ今日直ニ議ヲ決スルモ決シテ公論ニアラストハ云フヘカラス

○廿七番楠本正隆 本按ハ急施ヲ要スルヲ以テ點燈ニ及フモ之ヲ議決シテ可ナリ縱ヒ明日ニ延スモ或ハ又幾人ノ不參アルモ知ルヘカラス

本官ト雖モ亦其然ヲサルヲ保タサルナリ仍テ直ニ議決アラシトテ希望ス

○八番細川潤次郎 議官三分一ヲ以テ議事ヲ開クハ本院ノ規則ナリト雖モ之ヲ歐米各國ニ比照スルニ此ノ如キ不都合ナル法則アルヲ聞カス蓋シ本院規則設立ノ始ニ方リテハ議官中各般ノ公務ヲ兼子且旅行等夥多ナルヲ以テ其三分一以上ト爲スニアラサレハ實際開會スル能ハサルニ由リ止ヲ得ス一時之カ法則ヲ制定シ荏苒今日ニ及ヒタルナリ畢竟決議ヲ貴フ所以ハ全會一致ニ在リ其過半数ヲ以テ可トナスモ亦止ムヲ得サルモノトス我現任ノ議官ハ二十九名ナルモ本會ノ出席僅ニ十三名ナリ假令全會一致ヲ以テ可決スルモ猶全數ノ過半ニ至ラス其過半数ト云フモ乃チ七名ノミ是ヲ以テ我全國人

民ノ休戚ニ關スヘキ至重ノ事項ヲ議定シ之ヲ公議ナリ公論ナリト云モ人孰カ之ヲ信センヤ仍テ切ニ延會センコトヲ望ム

○議長 八番ノ建議ニ同意ノモノハ起立セヨ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ建議ヲ廢棄シ第十七號議按ヲ決ヲ取

ラン八番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 多數ニヨリ八番ノ修正說ニ決シ次號ニ移ルベシ

○書記官 左ノ按ヲ朗讀ス

第十八號議按

本會明治十一年第三十九號布告第二條中改正增加按

第二條 雜種稅ヲ賦課スヘキ者左ノ如シ其制限ハ府縣會ノ議決ニ任ス國稅アル者ハ其半額ヲ超ユルヲ得ス
製造人 職工
船、

○國稅ノ半額以內

諸市場演劇其他諸興行并遊覽所

諸遊技場 玉突射的 大弓楊弓吹矢ノ類

料理屋 西洋料理屋共 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 人寄席

質屋 兩換屋 爲替店共 陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者

古着古金古道具類 書畫骨董店共 旅籠屋 諸飲食店 饅屋餅屋蕎麥屋ノ類

湯屋 理髮床 雇人請宿

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲

俳優

幫間 藝妓

水車

乘馬 自用渡
世共

屠畜

○廿五番 河田
景典

夫レ製造人ハ其税ヲ課スルモ猶堪ユ可シト雖モ職工ニ至テハ恐ラクハ難シトス仍テ職工ノ二字ヲ删除セント欲ス抑々原按説明書ニハ高ニ苛ニシテ工ニ寛ナルヲ以テ今製造人職工ノ一目ヲ掲ケテ以テ其偏倚ノ弊ヲ免レシムトアリ蓋シ從來之ニ税ヲ課セサルハ偏倚ナリトシ更ニ課税セントスル者ナリ然ルニ凡税ヲ課

ラル、モノハ各其用意ナカルヘカラスト雖モ彼ノ職工ノ如キハ日々ノ勞力ニ因リ其代錢ヲ得テ漸ク糊口ノ資トナセリ故ニ今其税ノ爲メニ別ニ幾多ノ賃錢ヲ收得スルニ由ナク只時價ノ昇降ニ從ヒ僅ニ其報勞金ヲ左右スルニ止マルノミ此ノ如キ勞力者ニ税ヲ課スルハ不可ナリトス且之ヲ税外ニ除クハ國產ヲ繁殖セシムルノ一手段ニシテ主治者ノ最モ注意スヘキモノナリ因テ職工ノ二字ハ削除セントス

○廿七番 楠本
正隆

賛成ス猶廿五番ノ説ヲ敷衍センニ抑々職工ニ税ヲ課スルハ政略上ニ於テモ大ニ不可ナル者アリ蓋シ製造人ト稱スル者ハ或ハ造船所等ノ巨大ノ事業ヲ興シ許多ノ雇人ヲ使用スル者アリト雖モ職工ニ至リテハ太々是同シカラス其木工泥工等ノ類ハ日

々僅ニ二十錢或ハ三十錢ノ雇賃ヲ得ルニ過キス然ルニ之ヲシモ猶
課税スヘシト云ハ、終ニ婢僕税ヲモ課セサルヲ得サルニ至ラン斯
ノ如キ課税ハ到底法律上ニ於テモ政略上ニ於テモ共ニ不可ナリ

○八番 細川潤次郎

本官第十七號ヲ論スル所ニ方リ本案ヲモ連帶シテ修
正スヘシト陳述セリ然ルニ今朗讀ヲ聽クニ所謂修正委員ノ報告案
ニシテ該案ハ已ニ前議非ト決セリ然ハ則チ内閣下付ノ原案ニ復シ
之ヲ以テ本案ト爲スヲ至當トス更ニ議長ノ辯明ヲ請フ

○議長 八番ノ説ノ如ク朗讀ヲ誤レリ即チ内閣下付ノ原案ニ復スル
ヲ以テ順序トス各位之ヲ了セヨ

○番一 今村和郎

本案ハ消滅シ原案ニ復シタルカ
○議長 然リ廿五番ノ修正説ニ賛成者アリ即チ問題トナス

○番一 今村和郎

製造人職工ニ同ク拾五圓ノ税額ヲ課スルヲ酷ナリト
シテ職工ヲ删除セント云フハ税法ヲ知ラサルノ説ナリ其論旨タル

職工ニハ木工泥工ノ如キハ概チ貧人ナルヲ以テ總テ職工ノ税ヲ除
ク可シト云フカ如シ夫レ政府種々ノ税目ヲ設ケ之ヲ賦課スルハ務
メテ其公平ヲ欲スルノ主意ニ外ナラサルハ勿論苟モ國家ノ保護ヲ
受ケ納税ノ義務アルモノハ各自其力ニ堪ユルノ税ハ必ス之ヲ出サ
ルヲ得ズ是賦税納税ノ原則ナリ然ルニ職工中木工泥工ノ如キ貧
ノミナラス猶強テ他人ヨリ該者ニ慈惠ヲ爲サシムルモノ、如シ職
工固ヨリ貧ナル者アルヘクモ未タ以テ悉ク貧ナリトスヘカラス染
工寫眞師裁縫師等ニハ往々富裕ナルモノアリ一二貧人ノ爲メニ富

裕ナル他ノ職工ニ至ルマテ悉ク其稅ヲ免セントスルハ豈公平ト云
フ可シヤ修正說ハ全ク不可ナリ

○八番 細川潤次郎

本官ハ別ニ修正說アルヲ以テ廿五番ニ左袒スル能ハ
ス其說ハ製造人職工ヲ雜種稅目中ヨリ削除セント欲スルナリ何ト
ナレハ製造人ニシテ自ラ卸賣或ハ小賣ヲ兼ルモノモ亦之アラシ此
ノ如キハ乃チ二重稅ヲ出サ、ルヲ得ス且本項ニハ諸遊技場割烹店
等奢侈ノ營業者多シ製造人職工ノ如キハ固ヨリ之ニ比倫スヘキニ
アラサレハサリ

○議長 廿五番ノ動議ヲ可トスルモノハ起立セヨ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ廿五番ノ說ハ消滅ス

○八番 細川潤次郎

本官ハ製造人職工共ニ之ヲ削除セントス夫レ我國ノ
歐米各國ト并馳スル能ハサル所ノモノハ工業是ナリ然ルニ工業者
ノ如キハ其貧富大小ヲ問ハス業事ノ進歩ニ由リ一世ノ文運ヲ贊助
スルモノ尠カラス且彼ノ職上タル各自生計ヲ勞力ニ資リ概テ貧人
ノ作業ナリ然ルヲ之ヲ諸遊技場割烹店等ト比倫スルハ甚タ不可ナ
ラスヤ仍テ共ニ之ヲ削除セント欲ス蓋シ直接ニ課稅セサルモ那ノ
戸數割ヲ以テ間接ニ課稅スルモノナレハ單純ニ免稅スルモノトハ
云フヘカラス論者或ハ云ン遊技場等ト同一ニ併記スルヲ不可トセ
ハ宜ク之ヲ第十七號ニ挿入スヘシト是亦然ラス何トナレハ單ニ製
造人職工ト云フモ自カラ其製造品ヲ卸賣シ又ハ小賣スル者アルハ
田舎ノ鍛冶職業等皆是ナリ故ニ特ニ之ヲ第十七號ニ加ヘサルモ其

卸賣ヲ爲セハ卸賣ヲ以テ處シ小賣ハ小賣ヲ以テ論シテ可ナレハナ
リ若シ之ヲ本項ニ列記スルニ於テハ或ハ三重稅ヲ課スルトナキヲ
保タス殊ニ昨年迄ハ之カ稅ヲ徵收セサルモノナリ仍テ該二目ヲ刪
除スルヲ可トス

○十八番 東久世 通禧 賛成

○議長 八番ノ說ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 今村 和郎 八番ノ說ノ如ク若シ其製造人職工共併セテ之ヲ刪除

スルハ地方官ハ困却言フヘカラサルモノアリ何トナレハ地方官
ハ第三十九號布告稅目外ノ種類ニ課稅スルヲ得サルヲ以テナリ既
ニ昨年某地方官ヨリ出セシ豫算表ヲ見ルニ鍛冶職石工ト稱セスシ
テ鍛冶商石商等ノ名稱ヲ用フルモノアリ是其名ニ依ラサレハ課稅

スヘカラサルヲ以テ理事者ノ巧ミニ其名稱ヲ附シタル者ナリ而シ
テ當時内務大藏兩卿ニ於テモ協議ノ上更ニ之カ課稅ノ允可ヲ乞ヒ
タルモ政府ハ遂ニ之ヲ許サス故ニ地方官ハ止ムヲ得ス工ニ附スル
ニ商ノ名ヲ以テ之ニ課稅シ却テ其實際平均ヲ得タルモノ多シ其他
各地方ヨリ工ニ稅ナキハ不都合アリトテ續々稟議スル者アリ是ヲ
以テ内務卿ハ地方官ノ豫算表ニ染物職或ハ鍛冶職トアレハ其課稅
ヲ允許セサルモ染物商鍛冶商ト掲載セシモノハ之ヲ咎メスシテ允
許セリ又長崎縣等ニ於テハ蒸氣器械或ハ漆器陶器等ノ製造人ノ巨
大ナルモノアリ然ルニ舊法ニ據レハ此ノ如キ巨大ノ製造人ニモ稅
ヲ課スル能ハス反テ貧困ナル豆腐屋燒芋屋ノ類ニ稅ヲ納メシムル
ハ豈不公平ナラスヤ長崎縣ノ如キ若シ此製造人ニ課稅スルヲ得サ

ルニ至ラハ凡ソ四萬圓ノ歳入ヲ減スルヲ以テ該縣令出京同縣ニ限
 リ製造人へ稅ヲ課スルノ允許ヲ乞フ情陳スト雖モ法律ノ許サ
 、ル所ナルニヨリ内務卿ハ之ヲ許可スル能ハサル等ノコアリ此他
 各地方ニモ多少ノ障礙アルヲ以テ乃チ之ヲ本按ニ挿入セリ然ルニ
 今之ヲ删除スルニ至ラハ其理事者ノ困却素ヨリ少カラサルヘシ仍
 テ必ス此目ハ存センコトヲ要ス

○廿九番 柴原和

八番ノ說ニ同意ス職工等ニ稅ヲ課スルハ甚タ不可ナ
 リ各地方擧テ其工業ノ盛大ナランコトヲ希圖スルモ之ニ課稅セハ爲
 メニ其開進ヲ妨害スルノ恐レアリ故ニ之カ稅ヲ除クハ實ニ我國工
 業ノ隆盛ヲ贊助スルモノト云フヘシ

○一番 玉乃世履

八番ノ論旨ハ工商ヲ混同視シタルモノ、如シ所謂製造

會社ナルモノハ商ニアラスシテ工ナリ卸賣商ハ自己ノ製造セシ物
 品ノミヲ卸賣スルニアラス原來商業ハ彼ニ買ヒ此ニ賣ルモノニシ
 テ自己ノ製造物ノミヲ賣ルハ即チ工ナリ若シ夫レ自己ノ製造物ヲ
 賣ルモノヲ指シテ之ヲ商ト看認ムルハ後來工法商法ノ裁判所ヲ
 設立スルニ至リ其區別權限ノ紛爭ヲ生スヘキヤ必セリ且二人以上
 協同シテ物品ヲ製造スルノ會社ヲ立レハ其稅ハ課スルヲ得ルモ其
 結社セサレハ會社ニアラス又商ニアラス是純然タル工ナリ今若シ
 製造人職工ノ字ヲ刪レハ併セテ之ニ課スルヲ得サルナリ廿九番ハ
 工業ヲ勸獎スル爲メニ之ヲ免稅スヘシト云フハ當ラス其輸出稅ナ
 ルキハ其物ニ依リ稅免ノ保護ヲ與フルヲ可トスト雖モ苟モ一般ノ
 工業ニ免稅スルハ毫モ其理由ヲ看出ス能ハス之ヲ削除スルハ太々

不可ナリ

○九番神田 孝平

本按ヲ可トス其工業ニ由リ或ハ稅ヲ課スルニ忍ヒサル
モノアルヘシト雖モ亦課セサルヘカラサルモノアリ是一概視スヘ
カラサル所以ナリ又職工ヲ保護スルハ國稅ニ關スルモ地方稅ノ關
スヘキモノニアラス例ヘハ其道路ヲ修メ警察ノ保護ヲ受ケサルヲ
得サルモノナリ然ルニ今之ヲ刪レハ一切稅ヲ課スルヲ得ス故ニ本
按ノ如ク之ヲ掲ケ實際果シテ徵收ニ忍ヒサルモノアラハ之ヲ免除
シ瑣細ノ件ハ總テ行政官若クハ府縣會ノ斟酌ニ任シテ可ナラン仍
テ本按ヲ可トス

○廿七番楠本 正隆

八番ヲ賛成ス九番ハ今之ヲ掲ケ置クモ其忍ヒサルモ
ノアラハ免除シテ可ナリト云フト雖モ已ニ成文アル上ハ固ヨリ幾

分カ課稅セサルヲ得ス斷シテ之ヲ刪除スルニ如カス其貧工ヲ助ケ
工業ヲ熾ナラシメハ商業モ從テ隆盛ニ赴クハ理ノ最モ見易キモノ
トス現ニ職工ト云ヘハ概シテ貧民ナリ故ニ若シ之ニ稅ヲ課セハ恰
モ人頭稅ノ徵收ニ異ナラス是此刪除說ヲ可トスル所以ナリ
○議長 時既ニ五時ニ達ス本日ハ此ニ了リ明日例刻ヨリ續會ヲ開ク
ヘシ散會セヨ

午後第五時閉場

元老院會議筆記明治十三年三月廿六日

○第一百七十五號議按地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第二十四號ニ至ル議按及ヒ備荒儲蓄法布告案

第二讀會三月二十四日ノ續

議長山口 尙勞
代理

出席議官

- 一番 玉乃 世履
- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 八番 細川潤次郎
- 九番 神田 孝平

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the title '元老院會議筆記' and other illegible characters.)

- 十番 水本 成美
- 十一番 伊集院兼寛
- 十二番 楠田 英世
- 十五番 大給 恒
- 十七番 秋月 種樹
- 十八番 東久世通禧
- 十九番 津田 出
- 二十番 河瀬 眞孝
- 廿五番 河田 景與
- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 楠本 正隆

内閣委員 番外 内務少書記官 今村 和郎

廿九番 柴原 和

三十番 鶴田 皓

午前第十時十分開場

○議長 第七十五號議按第二讀會ノ續會ヲ開ク

○廿六番 伊丹重賢 前會ニ問題タリシ八番ノ修正説ハ其主趣工業獎勵ニ

出テ太タ是ナリトス乃チ之ヲ賛成ス

○八番 細川潤次郎 本官ノ修正説ヲ駁スルカ爲メ一番ハ工商ノ別ヲ説キ

製造人職工ハ會社ノ部ニ入ラスト論スト雖モ製造人職工モ時トシテハ商ヲ兼ル者アリ例ヘハ邊郷ノ鍛冶ノ如キハ鋤モ造リ鎌ヲ製シ店頭ニ排列シテ之ヲ販賣スル等比々是ナリ此等ハ即チ工商ヲ兼ヌ

ル者ト云フヘシ本官ノ工モ商ニ入ルヘシト云シハ是類ニシテ工ハ則チ商ナリト明言セシニアラス論者或ハ鍛冶ノ如キハ縦ヒ之ヲ除税スルモ可ナリ夫ノ製造人等ハ多少ノ雇工ヲ使役シ請負ヲ爲ス者アリ之ヲモ除税スルニ至ラハ大ニ不可ナリトノ説アルヘシト雖モ本官ノ意ハ徹頭徹尾勞力ニ税ヲ課スルヲ欲セス既ニ其貨物トシテ之ヲ販賣スルニ方リ始メテ課税スヘシトスルノミ又内閣委員ハ製造人中富有ノモノ少カラス若シ之ヲ免税セハ地方ノ歳入ニ關スト云ト雖モ富有者アリト云テ必ス之ニ課税スヘシト言ハ、一般豪農ニモ課税スヘク亦何物カ課税スヘキモノ無ラシ設シ亦工ノ大ナル者ハ可ナリトセハ其小ナルモノモ亦然セサルヘカラス已ニ農ニモ大小懸隔アルニ均ク之ニ課税スルニアラスヤ是道理ノ動カスヘカ

ヲサルモノニシテ即チ修正説ノ起ル所以ナリ

○廿七番 楠本
正隆

原來地方税ハ業者ノ得益ヲ量リ其若干以上ハ之ヲ課

シ若干以下ハ之ヲ免ストノ區域ヲ判然制定セサルヘカラスト雖モ本邦未タ其法ナキヲ以テ止タ概見ニ依リテ之ヲ課スルヲ例トス故ニ實際施行スルニ方リ之ヲ税目ニ掲クルモ零賣露店ノ如キハ課税セサル者多ク舊法ニ製造人職工ヲ免税セシハ亦是古來ノ慣習ニ由リタルモノナリ然ルニ今新タニ慣習ヲモ打破シタトヒ貧工ト雖モ課税セサルヘカラストセハ木工泥匠ノ如キモ亦皆之ヲ免カル、能ハス終ニ緊要ナル工業ニ影響ヲ生シ大ニ社會ノ衰頹ヲ來スモ保ツヘカラス是本官ノ八番ニ同意スル所以ナリ

○十三番 楠田
英世

原按ヲ可トス往時我職工等ニ課税セサル所以ハ租庸

調ノ税法行レシ時一年間若干日ト定制ノ賦役アリシ故ナリ是即チ當時ノ課税法ニシテ只其金ヲ以テスルト其勞力ヲ以テスルトノ差異アルノミ爾來商ニハ課税スルアルモ工ニハ課税セサル者ハ只管其慣習ニ據ル者ニシテ不平均モ亦太甚シキナリ故ニ之ヲ道理ニ照セハ慣習ヲ破リ商工均ク課税スヘキモノトス我國今猶上古ノ制ノ如クンハ更ニ外國法ヲ引証スルヲ要セスト雖モ維新以來地租改正ノ如キ重大ノ事業モ總テ其法ヲ外國ニ取ルキハ地方税モ亦之ニ倣フテ可ナラン仍テ本官ハ目下ノ地租ヲ減シテ百分一二至ラサルノ間ハ其工商ヲ擇ハス齊ク課税セサル可ラサルモノトス

○一番玉乃

世履

原來課税ナルモノハ頗ル困難事件ニシテ其法ノ良否ニ拘ラス其經濟ノ如何ヲ問ハス或ハ之ヲ聚斂ノ政ト呼ヒ或ハ苛酷ノ

所業ト稱スル者アリ輕々ニ看過セハ此說稍々理アルカ如キモ眞ニ經濟ノ點ニ就テ之ヲ熟思セハ課税ノ止ムヲ得サルヤ知ルヘキナリ今製造人職工ニ課税セサレハ此兩者ニ對シテハ政府慈仁ノ如クナルモ是所謂婦人ノ仁ニシテ到底此割引ヲ他ノ頭上ニ移シテ賦課セサルヲ得ス是不平均ノ甚シキモノナリ然ルモ唯此課税ヲ不可トスルノ精神ナレハ寧ろ全國ヲ通シテ無税ノ境トナスノ公平ナルニ如カス然レモ是亦言フヘクシテ行フヘカラサルモノナリ故ニ税ハ全國ニ徵シ貧困止ヲ得サル者ヲ除クノ外ハ皆其義務ヲ負擔セサル可ラス或議官ノ目下工業ノ隆盛ヲ期スルノ秋ナレハ課税ハ不可ナリト言フハ思ハサルノ甚シキモノナリ本官曾テ聞ク英國ノ如キハ工業最モ盛大ニシテ雄偉壯大ナル製作場ヲ森列シ蒸氣昇騰シテ雲煙

天日ヲ蔽フト是其工業ノ最モ彼ニ適應スルヲ以テナリ而シテ我ニ
適應スル者ハ農業ナリ然ルニ三家村裏ナル數弓瘠鹵ノ桑田ト雖モ
悉ク課稅中ノモノナラサルハナシ之ヲ那ノ英國ノ無稅ナル職工ニ
比スレハ其幸不幸果シテ如何ソヤ是本按ノ公平ヲ得ルト云フ所以
ナリ

○廿九番柴原和 前會ニ於テ内閣委員ハ長崎縣ノ一例ヲ舉テ辯駁スト
雖モ目下各府縣ヲ通觀スルニ製造所ノ如キハ其數實ニ僅々ナルノ
ミ本官曾テ乏ヲ千葉縣官ニ承シ時下總ニ製鹽ノ事業ヲ創ムル者ア
リ又官立ノ牧羊所モアリタレモ兩者共ニ維持ノ難キニ苦シムト聞
ケリ以テ工業ハ至難ノ事業ナルヲ知ルニ足レリ若シ之ニ課稅セハ
此興進ノ向路ニ當リ其妨害ヲ與フルヤ必然ナリ故ニ暫ク之ヲ刪リ

他日地方官會議ノ時ヲ待チ審論查議以テ之ヲ取舍スルモ亦敢テ晚
シトセサルナリ是本官カ八番ノ動議ニ左袒セシ所以ナリ

○番一今村和郎 八番ノ論旨ヲ約言セハ製造人ハ商業ノ方ニテ課稅ス
ルヲ得ヘキモ職工ハ農ト同ク自己ノ勞力ニ食ム者ナレハ宜ク之ヲ
除稅スヘシトノ二個ニ外ナラス此理由ヲ以テ本按ヲ削除セントス
ルハ太々解スヘカラス何トナレハ若シ製造人ニシテ自カラ其製造
物ヲ販賣セサル者ハ即チ稅ヲ脱スルニ非スマヤ工農ノ引証モ亦其當
ヲ失セリ所謂農ニ二個ノ區別アリ甲ハ自カラ所有ノ地ヲ耕シ乙ハ
他人ノ地ニ佃ス然ルニ何ノ爲ニ甲ハ課稅セサルヤト言ヘハ既ニ地
ニ租アリ之ニ稅ヲ課スレハ二重稅ナリ而シテ乙ニ稅ナキヤ日雇夫
ト同一ナルヲ以テナリ若シ農ニシテ地租ヲ納ムルノ外更ニ稅ヲ課

スルモ亦皆貧困ナルニ非ス此一理ヲ推スモ職工ニ課税セサレハ必ス
他ト平均ヲ失ス原來税ハ全國一般ニ課セサルヘカラサルハ已ムヲ
得サルモノナリ然ルニ職工ハ貧者アルヲ以テ之ヲ免ストセハ商估
ト雖モ亦然ラサルヲ得ス故ニ實際ニ就テ之ヲ論スルモハ貧商ハ既
ニ税ヲ免スルノ例アリ今職工ノ目ヲ掲クルモ其貧困ナル者ニハ課
税セサルコト明瞭ナリ又製造人職工ニハ陶器漆器玩弄物等ヲ製造ス
ル者アリ若シ此項ヲ刪ラハ此等モ亦課税スルコトヲ得ス蓋シ現行ノ
法ニヨレハ縱令製造人ノ目ナキモ已ニ會社ノ名稱アル者ハ之ニ課
税シ其中獎勵保護セサル可ラサル者ハ府縣會ニ於テ之ヲ除税スル
コトニ決セリ仍テ製造人職工ノ目アルモ眞ニ除スヘキ者ハ之ヲ除ス

ルノ慣例タルヲ以テ削除説ハ不可トス

○二番齋藤利行

工業ノ振起セサルヲ憂フルノ點ヨリシテ之ヲ視レハ削
除説ハ稍其理アルカ如キモ若シ之ヲ削レハ他ニ向テ必ス偏重ナル
課税ヲ爲サ、ルヲ得ス仍テ本按ヲ可トス

○八番細川潤次郎

十三番ノ説ハ頗ル其當ヲ失セリ若シ古昔ノ賦役法ヲ
可トセハ特ニ製造人職工ノミニ限ラス助郷スガノ方法モ亦再興セサル
ヘカラス然レモ其存廢奈何ヲ顧ミレハ之ヲ廢スルノ是ナルハ衆人
ノ業已ニ確認スル所ナリ古昔ノ制皆否ナラスト雖モ亦悉ク可ナル
ニ非ス王政復古ハ太々之ヲ可トスルモ徭役法ノ古ニ復スルカ如キ
ハ決シテ否ナリトス或議官ハ國家ヲ經綸スル爲メノ徵税ハ全國ノ
人民之ヲ負擔セサル可ラスト云ト雖モ平時ニハ務メテ課税セサル

ヲ可トス夫レ府縣會ヲ開キ之ニ徵稅ヲ委スル所以ハ其過重ナカラシメンカ爲メナリ營業稅雜種稅ニ制限アルモ亦之ニ由レリ蓋シ國家危急ノ秋ニ際セハ製造人職工及ヒ農夫ニモ課稅スルモ肯テ不可トナサス財產稅ヲ徵收スルモ亦不可ナシ然レモ今日ハ危急ノ時ニアラス仍テ本官ハ暫ク之カ稅ヲ免スルヲ可ナリト云フナリ況ヤ從來ハ之ヲ除クモ府縣ノ經濟ヲ維持スルニ支障ナカリシヲヤ之ヲ要スルニ本官ノ所見ハ詳ニ商工ヲ區分シ商ニ課シ工ニ課セサルヲ原則トシ職工ノ商業ヲ兼ル者アラハ之ヲ商ノ部ニ入レテ課稅シ工ノ部ハ之ヲ免セント欲スルナリ地方官ノ工ヲ誣テ商トシ之ニ課稅スルカ如キハ最モ不可ノ甚キモノトス冀クハ一刀兩斷工ニ除シ商ニ課スルノ法ヲ立以テ行政上ノ紛雜ナカラシメンコトヲ

○十三番 楠田英世 本官前ニ上古ノ例ヲ引証セシハ古制ハ地租ニ限ラズ力役ヲ以テ平均セシコトヲ述ヘシノミ土地ヲ有スル農民ノ如キハ今

日ト雖モ其地租ハ素ヨリ戸數割ノ賦課モ亦之ヲ納ムルニアラスヤ然ルニ職工等ノ租房ニ住居スルモノハ惟其家稅ヲ拂フニ過キス斯ノ如クンハ何ヲ以テカ能ク其平均ヲ得ン内閣委員ハ前年既ニ製造人職工ニモ課稅シタル地方アリト云ヘリ是ノ如キ地方ニ在テハ今年モ亦必ス之ヲ以テ豫算ニ加フルナル可シト雖モ徧ク平均ナランコトヲ務ムルハ課稅ノ原則ナルヲ以テ彼ノ商ニ課シ工ニ課セサルカ如キハ斷然改正セサル可ラス若シ否ラسنハ地方官ハ人民ノ苦情ニ對シ之ヲ説明スルノ辭柄ナカルヘシト信ス是レ蓋シ原按起草ノ源由ナラン故ニ本官ハ削除ヲ不可トス

○議長 既ニ正午ナルヲ以テ此ニ本會ヲ中止シ午餐後引續ノ會ヲ開

カン散會セヨ

午後零時五分閉場

午後第二時開場

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

○十七番 秋月 種樹

本按ノ如ク實施スルニ至ラハ假令貧婁ナル職工ニモ必ス課税セサル可ラス又八番ノ動議ノ如クセハ富裕巨大ナル製造人ニモ遂ニ課税スル能ハス夫レ我國今日ノ形況ヲ見ルニ工業未タ熾ナラス其憂ヒ全ク此一事ニアレハ獎勵ノ爲メ特ニ職工等ニ免税スルハ寔ニ時態適當ト云ヘシ然レモ製造人モ亦併テ之ヲ除クハ

大ニ權衡ヲ得サルモノアリ仍テ本官ハ其人ニ課セスシテ場所ニ課セントスルノ精神ヨリ製造人ヲ製造所ト修正シ職工ノ二字ヲ删除セシト欲ス若シ八番ノ動議消滅スルニ至ラハ更ニ意見ヲ提出セシト要スルナリ

○番一 今村 和郎

八番ノ昨年ハ製造人及ヒ職工ニ課税セサルモ能ク府縣ノ經濟ヲ維持セリトノ說ハ本按起草ノ精神ニ背馳セリ何トナレハ昨年ハ已ニ製造人ニ課税セサルヲ以テ自ラ他ノ點ニ向テ偏重大ル税ヲ課セリ故ニ是等偏重ノ弊ヲ撓メ以テ彼此平均ヲ得セシメント欲スレハナリ固ヨリ其經費ノ足ルト足ラサルトニ關スルニ非サルハ現行法律ノ第一第二第三類ノ區別ヲ解キタルヲ以テ見ルヘシ又或議官ハ第十七號議按營業稅雜種稅ノ制限ヲ論スルニ方リ之カ

制限ヲ解カサレハ其不足ノ金額ハ必ス戸數割ニ向テ課セサルヲ得
ス故ニ之ヲ解クナリトフ説ヲ主張シ而シテ翻然本項ノ削除説ニ同
意ヲ表スル者ハ所謂自家撞着ト言ンカ今若シ之ヲ删除セハ前年迄
課税セシモ今年ニ至リ之ヲ除クニ至リ其免除ヲ受ル者ニ在テハ不
平ノ鳴スナキモ他人ハ必ス罵々之ヲ訟ヘ苦情ヲ唱フルヤ必セリ是
決テ削除ス可ラサル理由ナリ

○一番玉乃 地方税ハ十二費目ニ供用スルモノナリ而シテ目下其徵
收ノ平均如何ヲ顧ミルニ例ヘハ警察費ハ十二費目中ノ一ナリ然ル
ニ富裕ナル木工ノ棟梁ニハ課税セスシテ貧窶ナル芋屋豆腐屋ニ課
税スルハ其非常ニ備ヘ其安寧ノ保護ヲ受ルハ即チ一ナルモ彼ハ
之カ爲メニ税ヲ出サス乙ハ反テ之ヲ納ムルモノトセハ豈其平均ヲ

得タリト言ヘケンヤ是レ製造人職工共ニ税ナカルヘカラサル所以
ナリ

○十五番大給 修正説ノ要旨ヲ玩味セハ或ハ一理アルカ如シト雖モ

○顧フニ更始維新ノ際ヨリ今ニ至リ課税其公平ヲ得サルモノ一ニシ
テ止マラス故ニ之カ改正ニ方リテハ宜ク其公平ヲ得セシムルヲ以
テ目的ト爲サハルヘカラス製造人等ニ課税スルハ財用ノ不足ヲ補
充スルニ非ス課税ノ平均ヲ得セシメンカ爲メナリ又工業ノ職ナラ
ンコヲ欲シ之ヲ保護シ之ヲ奨勵スルハ固ヨリ他ニ方法ナキニアラ
ス徒ニ免税ヲミヲ以テ足レリトナスハ未ダシナリ畢竟之ヲ課スル
モ既ニ十五圓以内トアレハ其貧富大小ニ應シ賦課ノ差等ヲ立ルヲ
以テ實施上ニ於テハ毫毛妨ケナキノミナラス始メテ課税ノ平均ヲ

得ルモノナリ因テ修正説ハ不可ナリ

○議長 八番ノ動議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少数ナルニ依リ之ヲ廢棄ス

○十七番 秋月種樹 本官ハ即チ職工ノ二字ヲ削除シ製造人ヲ製造所ニ作

ラントス其理由ハ已ニ前陳スル所ナルヲ以テ今贅セス

○廿七番 楠木正隆 賛成

○議長 十七番ノ説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外番 今村和郎 十七番ノ修正説ハ廿五番ト同趣ニシテ唯製造人ヲ製

造所ト更改スルニ止マレリ縦ヒ之ヲ製造所ト爲スモ其稅ハ迺チ製

造人ヨリ納ムルナリ字面ニ於テハ少異アルモ其意味ニ至テハ毫モ

差等アルコトナシ既ニ一旦廢棄セシ説ヲ以テ再ヒ本場ニ提出アルハ

太々解セサルモナリ

○十七番 秋月種樹 廿五番ノ説ト同趣ナルモ之ヲ提出スルニ何ノ妨ケカ

之レアラン例ヘハ第二讀會ニ於テ消滅セシ説ヲ第三讀會ニ方リテ

再ヒ提出スルノ例規アリ況ヤ字句異同アルニ於テヲヤ今此説ヲ作

ス決シテ不可ナリト云ヘカラス

○廿九番 柴原和 製造所トアレハ人頭ニ關セス即チ該所ヲ有スルモノ

、ミニ係ルヲ以テ寛苛其宜キヲ得タルモノトス仍テ之ヲ賛成ス

○議長 十七番ノ動議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 多數ナルニ依リ十七番ノ修正ニ決シ次號ニ移ルヘシ

書記官 森山茂

第十九號議案

明治十一年第三十九號布告第三條改正按

第三條

漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若

シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決

議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受

クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次號ニ移ルヘシ

書記官 森山茂

左ノ按ヲ朗讀ス

第二十號議案

明治十一年第三十九號布告第六條削除

○八番 細川潤次郎

本按第六條ノ精神ハ人民ヲ愛育スルニ在リ若シ之ヲ

削除セハ或ハ恐ル收歛ノ政トナランコトヲ向ニ本官ノ熱心シテ論辯

セシ如ク課稅ハ成ルヘク寡少ナルヲ欲スルヲ以テ終始此意ヲ動カ

スヘカラス凡ソ一軒内ニ於テ數種ノ營業ヲ兼ルモノハ多クハ邊陲

寒郷ニ在リ且是等ハ概シテ貧商多キニ居レリ然ルニ各種類ニ就キ

一々稅ヲ課スルニ至ラハ其困難奈何ソヤ故ニ現行ノ法ノ如ク本條

ヲ存シテ可ナリ

○二番 森利行 賛成

○議長 八番ノ動議ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番今村和郎

第三十九號第六條ヲ削除ス可ラスト言フハ徒ニ机上ノ空論タルニ過キス現行法律ノ如キハ一軒内ナレハ幾種ノ營業ヲ兼ルモ單ニ一種ノ稅ヲ課スルニ止マリ若シ僅ニ軒ヲ離レ門戸ヲ殊ニスル者ハ則チ悉ク之ニ課稅スト云ノ意味ニシテ抑々奇異ノ法律ト言ハサルヘカラス實際上ヨリ之ヲ論セハ一軒内ニ於テ數種ノ營業ヲ爲セハ亦隨テ數種ノ稅アルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ然ルニ一軒内ニテ數種ノ營業ヲ爲ス者ハ多クハ寒郷僻地ニアリ且概シテ貧者ノミナリト云ト雖正必ス悉ク然ルニアラス故ニ是等ノ營業者ニ對シ唯其一種ノミノ稅ヲ課スルハ頗ル輕寬ニ失シ其平均ヲ得ルニ難シ仍テ本條ヲ削除シ營業種類ノ多寡ニ隨ヒ其程度ヲ量リ之ニ課稅セハ各其平均ヲ得ルヤ必セリ且其程度如何ニ於テハ固ヨリ府

縣會ノ監督スル所ナレハ亦毫モ顧念ヲ要セサルナリ故ニ本條ヲ削

除スルモ妨ナシ

○九番神田孝平

本條ハ削除スルヲ允當ナリト看認ム何トナレハ設シ之ヲ存セハ一種ノ外ハ無稅ニシテ數種ノ商業ヲ爲スヲ得ルヲ以テ單ニ一種ノ商業ヲ爲ス者ハ其偏重ニ苦シムハ明々白々ナリ故ニ之ヲ削除シテ其公平ヲ需ムルニ如カストス

○二十六番伊丹重賢

課稅ノ程度ハ議會ニ委スルヲ以テ敢テ顧慮ヲ要セス故ニ本條ヲ削除スルモ不可ナシトス

○八番細川潤次郎

平均ヲ得ルノ論ハ到底言フ可クシテ行フヘカラス法律ハ實際ニ徵シ理情相量リテ制定スルニ非レハ不可ナリ縱令府縣會ノ監督アルモ謾然之ニ依頼ス可ラス乃チ法律ヲ以テ制限スルニ

アラサレハ或ハ其當ヲ失シ極度ニ課税スルニ至ル事此ニ及ヘハ人民ハ何ニ由テ之ヲ拒ムヲ得レヤ本條ハ删除スヘカラス

○外一番今村和如 本條ヲ存スルノ不是ナルハ前陳既ニ盡セリ一軒内ナ

レハ數種ノ營業ヲ爲スモ唯其一種ニ税ヲ課スルニ止マリ僅ニ軒端ヲ離レ門扉ヲ異ニスレハ悉ク之ニ課税スト云ハ不公平モ亦甚タシ到底删除ヲ可トス

○十三番楠田英世 法律ヲ以テ制限ヲ定ムルモ到底臆測妄量タルヲ免レ

ス故ニ寧ロ之ヲ議會ニ委シ人民ヲシテ各自貯蓄心ヲ失ハサラシムルヲ可トス之ヲ削除スルハ允當間然ナシ

○八番細川潤次郎 反對論者ノ説ノ如クナレハ寧ロ法律ヲ設ケスシテ循吏ニ委付セハ可ナランカ然レモ此ノ如キ迂濶ナル事ヲ以テ國家ヲ

維持シ人民ヲ保護スヘカラサルヤ言ヲ待タス且立法官ニ於テハ必

ス其有ラサル事迄モ綿密思量ヲ加ヘテ其當否ヲ議ラサル可ラス况

ヤ門外ヲ出ル一步乍ナ此事アルニ於テヲヤ若シ本條ヲ删除セハ其

卸賣仲買小賣ト三業ヲ兼ル者ニハ十五圓ノ三倍ヲ課税スルモ未タ

知ル可ラス既ニ前會ニ於テ營業稅雜種稅ハ制限ヲ解カサルニ決セ

リ然ルニ今本條ヲ削除スヘシト言フハ前後撞着セリ何ソ前ニ厚ク

シテ後ニ薄キヤ必ス本條ハ存セサルヘカラス

○二番齋藤利行 各地ノ實況ヲ徵スルニ邊郷隙地ニ於テハ一軒内ニ數種

ノ物品ヲ販賣スル者ハ僅ニ其一村裡ノ需用ニ供シ辛ウシテ其生計

ヲ營ム者比々皆是ナリ若シ此營業者ナキトキハ僅々タル一種ノ物

品ヲ需用スルカ爲メ之ヲ數里外ニ求メサルヲ得サルニ至ル其不便

ナル殆ト名状ス可ラス當初本條ヲ設ケタルハ蓋シ此意ナルヘシ仍
テ本官ハ八番ノ動議ヲ贊成ス

○外一番和今村 本條ノ如キハ目下各府縣ニ於テ其適宜ヲ酌リ等級ヲ

殊別シ以テ之ヲ施行セリ故ニ之ヲ全任スルモ敢テ顧慮ヲ要セス又
數種ノ營業ヲ爲ス者ハ各個ニ稅ヲ課セサルヘカラサル理由ハ例ヘ
ハ二時間ノ作業ハ一時間ノ作業ニ一倍シ三時間ノ作業ハ三倍ノ利
益アリ茲ニ數種ノ營業ヲ爲ス者ハ一種ノ營業者ヨリ其收益ノ多キ
ハ以テ知ルヘキノミ然レトモ其資本ノ饒否ニ因リ從テ其收益ニ厚
薄アルヲ以テ其程度ヲ酌量シ之ニ課稅セハダトヒ各種ニ課賦スル
モ決シテ不可ナキモノトス又二番ハ邊陲ノ實況ヲ擧テ論スト雖モ
是レ彼ノ貧窶ナル木工泥工ニハ課稅セサルモ猶職工ノ目ハ存セサ

ルヘカラサルト一般ノ趣旨ニシテ今數種ノ營業ヲ爲スモノハ其貧
富ヲ問ハス皆以テ課稅スヘシト云フニ非ス歸スル所本條ヲ削ラサ
レハ課稅ニ太タシキ權衡ヲ失スルナリ

○八番細川調 現ニ各府縣ニ於テ適宜施行スルヲ以テ本條ヲ削除ス
ルモ妨ナシトスルハ所謂臆測妄量タルヲ免レス本官ヲ以テ之ヲ視
レハ現今實施上ニ其害ナキモノハ本條ノ存スルアルニ因テナリ若
シ之ヲ削除セハ前陳スル若キ障礙ヲ生スルヤ必セリ本條ハ最モ刪
ルヘカラス

○外一番和今村 本條ヲ削除シテ其害ヲ見ストナスモノハ既ニ或地方
ニ於テ營業稅ヲ十七等ニ區分スルモノアリ其他ノ地方ニ於テモ皆
悉ク其貧富ニ應シ數等ニ區別シ各其宜キニ從テ之ヲ課ス是專ラ府

縣會ノ議決ニ成ルヲ以テ秋毫ノ顧慮ヲ要セサルナリ或議官ハ何ヲ苦ンテ之ヲ存セントスルヤ

○八番細川潤次郎

各府縣ニテ其等級ヲ立ルハ所謂手心ニテ定ムル者ナリ蓋シ法律ト雖モ或ハ十錢又ハ百圓ト制限ヲ定ムルハ揣摩ノ誹リヲ免カレスト雖モ仍ホ刑法ニ長短二期ノ區別アルト一般宜ク先ツ制限ヲ立テ而シテ後チ之ヲ府縣會ニ任シ其範圍内ニ於テ取捨セシムルヲ可トス前會ニモ本官ハ同一ノ精心ヲ以テ痛ク營業雜種兩稅ノ制限ナカルヘカラサル旨ヲ論セリ今若シ本條ヲ削除シ此事件ヲ舉テ府縣會ニ委スルトセハ法律ヲ二三ニスルニ近シ故ニ本條ハ存セサルヘカラス

○議長 討論ノ盡タルヲ認ム八番ノ動議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 八番ノ説ハ少數ナルヲ以テ之ヲ廢棄ス又第二十二號議按ハ削除シタレト既ニ營業雜種兩稅共ニ制限ヲ存スルニ決スル上ハ原按ニ復リ本按ヲ第廿一號トシ第廿一號ヲ第廿二號トシ以下之ニ準シテ議ニ付スヘシ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十一號議按

明治十一年第三十九號布告第七條增加按

第七條 凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○ 全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次號ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十二號議按

明治十一年第三十九號布告第九條增加按

第九條 第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモ

ノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ

政府ノ裁可ヲ受ク可シ

○ 議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次號ニ移ルヘシ

第廿三號議按

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

區町村會法布告按 (沖繩縣ヲ除ク)

第一條 區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支

出徵収方法ヲ議定ス

○ 廿九番 柴原 和 本按ハ廢棄スヘシ十一年七月廿二日ノ布告ニヨリ區

町村會ヲ開設スルニ充分ノ便法アリ故ニ人民ヨリ其開設ヲ請フニ

至ラハ地方官ハ之ヲ内務卿ヘ具狀シテ許可スヘシ若シ本按ヲ頒布

セハ協議費ノヲモ從テ埋沒スルニ至リ且瑣々タル事件ト雖モ此法

ニ據ラサルヲ得サルニ至ラン殊ニ該會ヲ開キ人民若シ其經費ヲ支

出スル能ハサル者アレハ爲メニ其財産ヲ公賣シ之ヲ徵收セサルヘ

カラス斯ノ如キ理由アルヲ以テ本按ハ廢棄スルヲ可トス

○廿七番正格 贊成ス元來本按ハ區町村會ノ法ヲシテ全國一般同一

轍ニ歸セシメントスルノ旨趣ナリ今本按ヲ熟視スルニ宛モ政府ハ

人民ト直接ニ締約ヲ爲スカ如キ体裁ニシテ亦不完備ノ法律ト言ハ

サルヲ得ス故ニ本官ハ之ヲ頒布スルヲ須ヒス從前ノ慣習法ニ依ル

ノ優レルニ如カストス若シ然ラサレハ一層整齊シタル一定ノ法則

ヲ制定スルニアラサレハ不可ナリ然レニ縱令其法ヲ設クルモ今日

ノ形況ニ在テハ未タ施行スルノ程度ニアラス因テ地方ノ慣習ニ委

シテ更ニ妨ナキモノナリ

○議長 廿九番ノ動議ハ贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○一番玉乃 本按ヲ頒布セハ當ニ弊害ナキノミナラス却テ大利益ア

世履

ルヲ信ス試ニ一例ヲ舉ケ之ヲ證センニ一町村人民ノ相談會モ持寄
ノ無盡講ヲ開クモ其會集ノ確實タランコヲ欲セハ素ヨリ其約束ナ
カルヘカラス而シテ其約束タル唯口約ノミニテハ往々葛藤ヲ生ス
ルヲ以テ之ヲ文書ニ明載シ其紛雜ヲ防クハ古今都鄙共ニ然リ僅ニ
人民ノ小集ト雖モ尙且此ノ如シ苟モ法律ニ認メタル區町村會ニ其
規則ヲ設ケサレハ人將タ之ヲ何トカ云ン宜ク之ヲ制定シ明カニ其
法則ヲ明揭シ以テ他日ノ紛雜ナキヲ期スヘシ何ソ本按ヲ廢スルノ
理アラシヤ

○廿九番柴原 本官固ヨリ規則ヲ設ケサルモ可ナリト云フニアラス

唯其地方ノ便宜ニ委スルヲ可トナスノミ今中央政府ニテ之ヲ制定

セサルモ區町村會ハ開設シ難キニ非ス内閣委員モ既ニ曰フ堺縣ヲ

除クノ外ハ各府縣トモ悉ク町村會ヲ設ケタリト果シテ然ラハ設ヒ
 本按ナキモ該會ハ既ニ開設スルヲ得ルヲ知ルヘシ若シ本按ノ如ク
 セハ些々ノ事件アルモ法律ニ據テ議シ瑣少ノ費用モ法律ヲ以テ徵
 收スルニ至リ貴重スヘキ協議ノ便法ヲ廢シ却テ人民ニ不便ヲ與フ
 ルハ前陳ノ如シ之ヲ要スルニ簡便ナル十一年ノ便宜法ヲ廢シ本按
 ノ如クナスモ毫モ其利益ヲ見出ス能ハス故ニ廢按ヲ可トスルナリ
 ○外番和今郎村 原來區町村會ハ公認セシ者ニアラス十二年第廿二號
 ヲ以テ區町村會ヲ開設セシ地方ニ於テ云々ト布告シ始メテ之ヲ公
 認セシナリ本按ハ即チ既成ノ町村會ノ爲メニ設クル法律ナリ已ニ
 該會ヲ公認セシ以上ハ其法律ナカルヘカラス然ルニ本案ハ簡略ニ
 過キ法律ノ体裁ヲ具ヘスト云フト雖モ必スシモ綿密ニ涉ルヲ以テ

法律トハ云フヘカラス又堺縣ノミ區町村會ノ設ケナシト云シハ未
 タ其規則ヲ内務省ヘ申報セサルヲ以テナリ其府縣會ニ於テ議決シ
 地方長官ノ認可セシ者ハタトヒ管内ノ人民其費用ヲ出スヲ欲セサ
 ルモ該規則ニ因リ必ス之ヲ徵收スルヲ得ルト雖モ區町村會規則ニ
 於テハ則チ彼ノ財産公賣處分ノ如キニハ至ラサルモノナリ若シ此
 ノ如キ場合ニ於テハ區長或ハ戸長ヨリ之カ原告トナリ其費用ノ請
 求ヲ裁判所ヘ訴フルニ至ルナルヘシ本案ハ其明文ヲ掲載セサルモ
 已ニ其精神ヲ以テ起草セシナリ故ニ本案ヲ頒布セハ其人民ノ好マ
 サル事件ハ之ヲ謝絶スルヲ得ルモ從前ノ慣習法ニヨレハ之ヲ爲ス
 能ハス然ハ則チ本案ハ區町村民ノ爲メニ利益ナシト云フ可ラス又
 之ヲ頒布スルモ區町村自治ノ精神ヲ破ルニ至ラサルヤ必セリ必竟

廢案論者ハ能ク本案ノ旨趣ヲ了得セサルニ因ルナルヘシ本案ハ決シテ動カスヘカラス

○九番 神田孝平 法律ヲ設クルハ人情世態ニ基ツカサル可ラス是ヲ以テ

前年ニ適當ナル者モ今年ニ迫ヘハ既ニ不適當トナルモノアリ是其人情世態ノ活動ニヨレハナリ既二十一年ニ適當ナル法律モ今年ニ至リ適當ナラサルヲ覺ユルニ因リ本案ヲ以テ之ニ適當ナラシムル者ナレハ本案ハ肯テ不可ナシトス

○議長 討論盡タルヲ以テ廿九番ニ同意ノモノハ起立セヨ
起立者四人

○議長 二十九番ノ説ハ少數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ルヘシ
書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條 區町村會ノ規則ハ其區町村ノ便宜ニ從ヒ之ヲ取設ケ府知

○事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ
起立者十四人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ル可シ
書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 數區町村聯合會ヲ開クハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ
起立者十四人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ニ伺ヒ(戶長ハ郡區長ヲ經テ)其指揮ヲ乞フコトヲ得

○十七番 秋月種樹 本條ニハ府知事縣令ニ伺ヒ其指揮云々トアリ法律文ニ伺ヒ等ノ字ヲ使用スルハ穩カナラス依テ第六條ニ倣ヒ本條ノニ伺ヒ其ノ四字ヲ削除シノ、一字ヲ加ヘ府知事縣令ノ指揮ヲ乞フヘシトセハ首尾齊整ナラン

○八番 細川潤次郎 賛成

○廿六番 伊丹重賢 賛成

○議長 十七番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議者ナキヲ以テ十七番ノ修正說ニ同意ノ者ハ起立セヨ
起立者十四人

○議長 多數可トシタルヲ以テ十七番ノ修正說ニ決シ次條ニ移ルヘシ

○一番 今村和郎 ノ、字ハ何所ニ加フルヤ十七番ノ辯明ヲ乞フ

○十七番 秋月種樹 戶長ハ郡區云々ノ上ニ加フルナリ
書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 數區聯合會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ數町村聯合會ノ評決ハ地方ノ便宜ニヨリ戶長又ハ郡區長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルハ總テ第四條ノ手續ニ從フヘシ

○八番 細川潤次郎 本條ノ第四條云々ハ例文ニ依リ前條云々ト修正スヘ

○十七番 秋月 種樹 賛成

○議長 八番ノ説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ八番ノ修正説ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 多數可トシタルヲ以テ八番ノ修正ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第六條 郡區長ニ於テ町村會若シ法ニ背クコトアリトスルハ之ヲ

中止シ其評決ヲ不適當ナリトスルハ其施行ヲ止メテ府知事縣

令ノ指揮ヲ乞フコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

シ

起立者十二人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第七條 府知事縣令ニ於テ區町村會及ヒ聯合會若シ法ニ背クコトア

リトスルハ之ヲ中止スルコトヲ得又ハ之ヲ解散シテ改撰セシム

ルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○議長 起立者十人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第八條 水利土功 公共ノ水利土功ニシテ全町村ノ利害ニ關係スルモノ又

ハ利害ニ關係ナキモ從來組ノ爲メ町村會ノ決議ヲ以テ其關係ヲ

合等ノ慣行アルモノヲ云ル人民若シクハ町村ノ集會ヲ要スルハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規

則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ル可シ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第九條 第八條ニ掲ケタル集會評決ノ施行及ヒ其取締ハ第五條及

ヒ第七條ニ依ルヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者十二人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ルヘシ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十條 第三條及ヒ第八條ニ掲ケタル集會ヲ要スル時其關係アル

區町村若クハ人民中異議アリテ其集會ニ應ヒサルハ府知事縣

令之ヲ府縣會ニ付シ其決スル所ニ依リ之ヲ定ムヘシ

但府縣會ノ閉會ニ當リ其開會ヲ待ツヘカラサルハ府知事縣

令之ヲ決定スルヲ得此場合ニ於テハ次ノ開會ニ於テ之ヲ報

告スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者十一人

○議長 多數可トシタルヲ以テ本按ニ決シ適チ第二讀會ヲ閉ツ

○外一番今村和郎 急施ヲ要スルヲ以テ引續前日修正委員ニ附托セラレタル第三號議按第二讀會ヲ開カレンコトヲ請求ス

○議長 修正委員ヨリ報告セシ第三號議按ハ本日已ニ頒布セリ惟フニ或ハ未タ熟考ノ暇ナカル可シト雖モ本按ノ急施ヲ要スルハ各位ノ詳知スル所ナリ且内閣委員モ請求セルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開クヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 多數可トシタルヲ以テ引續第三號議按ノ第二讀會ヲ開ク

書記官森山茂 左ノ報告書ヲ朗讀ス

第七百七十五號地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第二十四號ニ至ル議按去ル十二日第一讀會ニ方リ該按ノ附托ヲ受ケ本官等ノ修

正シタル第十七號議按即チ原按第十八號議按ノ如ク可決スルハ明治十一年第三十九號布告ニ抵觸スルヲ以テ該布告中第五條第七條ノ二條ヲ删除シ及第八條中第五條ノ三字ヲ削リ之ヲ修正セサルヲ得ス因テ其理由ヲ開陳シ此段併セテ及報告候也

委員

明治十三年三月十七日

議官 楠本 正隆

同 神田 孝平

同 玉乃 世履

議長大木喬任殿

○外一番今村和郎 第十八號布告第一條ニハ「經費ノ豫算云々」トアリテ即チ豫算ヲ目的トス第五條ノ主眼ハ事件ナリ然ルニ第二條ヲ削除セ

ハ之ヲ橋梁ノ一ニ例センニ抑々之ヲ架スルノ可否ヲ議スルニ止ル
カ將々架橋ノ材料及ヒ經費ヲモ議シ得ルモノナルカ其議スヘキ事
件ノ幅員太々分明ナラス若シ此修正ノ如ク決スルハ内閣ニ對シ
委員ハ其辯明ヲ爲スニ苦シムナリ故ニ修正委員ノ説明ヲ乞フ

○一番玉乃 世履 内閣委員ハ向ニ豫算ト掲クレハ特ニ事件ト掲ケサルモ
其幅員ハ自ラ分明ナリト説明シ今又之ニ反シテ事件ト掲ケサレハ
其幅員分明ナラスト云ヒ自家撞着ノ説ヲ爲スハ何ソヤ元來此幅員
タルヤ警察ナリ橋梁ナリ十二費目中ノモノ則チ皆其事件ナリ焉ソ
更ニ説明ヲ煩スヲ須ヒンヤ

○番今村 和郎 十二費目中ノ事件ナルコトハ論ヲ俟ス本員ノ辯明ヲ乞
ヒタルハ此ニ在ラス例ヘハ府縣會ニテ諸費ノ決ヲ取ルニ議員ノ日

當又ハ滞在費ノ如キ書記ノ人員ノ如キ各項各自ニ議ヲ取ルカ將々
其各費目ヲ總括シ概額ヲ以テ議決ヲ取ルカヲ質疑セシナリ是再ヒ
其説明ヲ煩ハサント欲スル所以ナリ

○一番玉乃 世履 例ヘハ警察費ノ總額ノ概算ニ就キ決ヲ取ルコトモアル可
ク又其細目ニ及フコトモアラン要スルニ其地方官ヲ信スルト否ラサ
ルト議事ノ精粗如何トニ由リテ差異アリ其實施上ニ於テハ固ヨリ
一定ノ方法アルコトナキナリ

○二番齋藤 利行 從來一議官發議シ他ノ議官之ニ質疑ヲ爲スニ方リ其答
フルト否トハ其發議者ノ隨意ナリ内閣委員ハ議官ニ對シ質疑ヲ爲
スヘカラストハ規則ニ明文ナシト雖モ目下ノ問答ノ如キハ從來本
院ノ慣例ニ於テ未々曾テ之レアルヲ聞カス且事件云々ノ討論ハ既

ニ前會ニ盡キタルヲ以テ再ヒ論及スルヲ用ヒス故ニ直ニ本條ニ就テ決ヲ取テ可ナラントス仍テ之ヲ建議ス

○十三番 楠田英世 二番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 内閣委員ト雖モ修正ノ主意ヲ明了ニ解得スルニアラサレハ復命ニ苦シムハ當然ナルヲ以テ其質疑ヲ許セリ然レモ今ヤ質疑已ニ盡キ且發議ナシト認ルヲ以テ直ニ決ヲ取ントス修正委員ノ報告書ニ同意者ハ起立セヨ

起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ報告書ハ廢棄ス

○番一 今村和郎 報告書消滅セハ下附ノ原按ニ可決セシヤ

○議長 然リ

○八番 細川潤次郎 本會ニ所謂原按ナルモノハ修正按ニシテ消滅セシ議

按ハ則チ再修正按ナリ從來再修正按ノ消滅ニ歸シタル時ニ方リテハ原按ニ復スルヤ原々按ニ歸スルヤ其例未タアラサルヲ以テ先ツ之ヲ定ムルヲ可トス仍テ之ヲ建議ス

○十三番 楠田英世 八番ノ説ノ如ク從來此ノ如キ例ナシ然レモ下附ノ原

按ハ業ニ既ニ消滅シ本按亦消滅セシ以上ハ前會ニ於テ非決シタル原按ニ決スルノ外ナキカ如シ然ルニ假令規則ニ明文ナキモ之ヲ下附ノ原按ニ復スルノ理ハ万々アルコトナシ仍テ八番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 第三號議按ノ修正按ハ已ニ前會ニ於テ廢棄セシヲ以テ再修正按ノ消滅セシ以上ハ直ニ下附ノ原按ニ復スト言シハ議長ノ疎漏ヲ免レス乃チ下附ノ原按ハ既ニ遠ク離レタルモノナレハナリ故ニ

前ニ内閣委員ニ答ヘタルハ之ヲ取消スヘシ

○一番玉乃原按ハ事件云々ノ數字ヲ削除セシヲ以テ遂ニ否決シハ

番ノ建議ニ因リ再修正ヲ爲スニ決シ本官等再ヒ修正委員ノ撰ニ當リ再修正ヲ爲シタルニ今又本按ノ消滅シタル時ニ當リ前ニ非決セシ原按ニ復スルハ不可ナリトス

○十七番秋月修正委員自ラ其修正按ヲ不可ト爲ス如キハ未タ曾テ其例アラズ必竟本按ハ第一條ニ掲ル云々數字ノ存廢ニ就キ當初ヨリ議論百出殆ト局ヲ結フ能ハサル狀況ナルヲ以テ先ツ此存廢ヲ決セハ議事整頓シ易カラシ更ニ之ヲ建議ス

○八番細川潤次郎抑々再修正ニ付スルモノハ原按ヲ以テ議ス可ラサルノ實因アルニ依テナリ歐洲各國ニ於テハ再三修正委員ニ附托シ仍

ホ議會ニ於テ否決スル時ハ更ニ委員ヲ改撰スルノ法則アリ必竟委員ノ報告書ハ自己ノ所見ニ因リテ起艸スルモノナレハ以テ普ク衆

人ノ意見ニ適合セサルモ肯テ怪ムニ足ラス本按ニ對シ第一回ノ修正案ハ議場ニ紛議ヲ生シ終ニ再ヒ委員ニ附托シ第二回ノ修正案トナレリ然レハ其修正按ハ本會ニ否決セシト雖モ未タ全ク消滅シタル者ニアラス故ニ之ヲ第一回ノ修正按ニ復シテ可ナリトス下附ノ原案ニ歸スルハ不可ナラン仍テ復タ更ニ之ヲ建議ス

○二番齋藤利行假令修正委員自ラ其修正ヲ不可トシ又多數之ヲ否トスルモ第一回ノ修正按ハ既ニ一旦議場ノ問題トナリタルモノナリ今本按否決セハ之ニ復スルヲ以テ當然ナリトス

○議長 十七番特別ノ建議アリト雖モ既ニ第二回ノ修正按消滅セハ

第一回ノ修正按ニ決スルノ外他ナキナリ故ニ議事整頓ノ爲メ第一回ノ修正按ニ決シ茲ニ第二讀會ヲ閉ツ若シ該按ヲ不可トスルノ所見アレハ第三讀會ヲ俟テ之ヲ論ス可シ

○番一今村和郎引續第三讀會ヲ開カレンコヲ請求ス

○議長 本日ハ既ニ日暮ノ移リタルヲ以テ委員ノ請求ハ採用セス第三讀會ハ明日例刻ヨリ之ヲ開クヘシ散會セヨ

午後第五時二十分閉場

元老院會議筆記明治十三年三月廿七日

○第百七十五號議案 地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第廿四號ニ至ル議按及ヒ備荒儲蓄法布告案

三讀會

議長 山口尙芳
代理

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 八番 細川潤次郎
- 九番 神田 孝平

十番 水本 成美

十一番 伊集院兼寛

十二番 岩下 方平

十三番 楠田 英世

十七番 秋月 種樹

十八番 東久世通禧

十九番 津田 出

廿一番 河瀬 眞孝

廿五番 河田 景與

廿六番 伊丹 重賢

楠本 正隆

元米湖會館奉出開會十三日三月廿七日

○本日十五正議案

廿四

廿六番

廿五

伊丹 重賢

楠本 正隆

三番會

山口 眞孝

十九番

津田 出

廿九番 柴原 和

三十番 鶴田 皓

内閣委員 一番 外務少書記官 今村 和郎

○議長 午前第十時三十分開場

○議長 本日ハ議長他ノ公務アルヲ以テ本官代理シ第百七十五號議

案ノ第三讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議ス可シ

○廿六番 伊丹 重賢 本案ノ急施ヲ要スルハ各位ノ業已ニ知ル所ナリ然ル

ニ數回ノ會議ヲ經討論亦盡セリ今日ニ至テハ恐ラク其餘蘊ナキヲ

信ス仍テ全編連帶シテ決セラレシコトヲ建議ス

○廿七番 楠本 正隆 賛成

○八番 細川 潤 日向日本按開議ノ時之ヲ五個ニ分別シテ問題トシタル

○慣例アリ今日ノ會ト雖モ猶發議ナキヲ保セス故ニ全編ヲ連帶シテ
 ○決ヲ取ルハ或ハ紛雜ヲ生スルノ恐レナキニアラス然レトモ敢テ自
 説ヲ主張スルニアラス是等ハ議長ノ撰擇スル所ニ任サンヲ望ム
 ○議長ハ八番建議ノ如ク本按ヲ五個ニ分別シテ問題ト爲サントス然
 ○レトモ已ニ廿七番ノ建議アルヲ以テ之ヲ衆議ニ問シ乃チ本案ヲ五
 分シテ問題ト爲スニ同意ノ者ハ起立セヨ

○議長 全員悉起立

○議長 全會ナルヲ以テ本按ヲ五分シテ問題ト爲スニ決シ迺チ先ツ

第三號以下第七號迄ヲ連帶シテ問題ト爲ス可シ

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三號議按

明治十一年第十八號布告第五條改正按

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者ト
 ス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ其事
 由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第四號議按

明治十一年第十八號布告第六條改正按

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度
 ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ其異見アル者ハ府知事縣令ニ説明ヲ
 求ムルコトヲ得若シ其説明ニ服セサルハ議長ノ名ヲ以テ直チニ
 内務大藏兩卿ニ上申シテ裁決ヲ乞フコトヲ得

第五號議按

明治十一年第十八號布告第七條改正按

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ先ツ議會ヲ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直ニ内務卿ニ建議スルヲ得

第六號議按 明治十一年第十八號布告第九條第二項增加案

府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セザル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得
第七號議案
明治十一年第十八號布告第十一條第一項改正按

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ之ヲ府知事縣令ニ報告

シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告ス可シ

○外一番今村和郎 原按第三號議按ノ冒頭ナル「第一條ニ掲ケタル」ハ八字

ヲ削除セハ府縣會ノ議決ハ凡百ノ事悉ク府知事縣令ノ認可ヲ得タル上ニ非サレハ之ヲ施行スル能ハサル者ノ如シ例ヘハ地方ノ衛生事務ニ就キ醫員ヲ撰擇スルニ方リテ之ヲ議會ニ委シ知事令ノ認可ヲ得ルヲ要セザルハ之ニ任スルヲ好マサルヲ以テナリ然ルニ此ノ如キモ其認可ノ上トセハ實地大ナル不都合ヲ生スヘシ仍テ原按ノ如ク「第一條ニ掲ケタル」ハ八字ハ之ヲ復スルニ如クハナシ然ラサレハ但書ヲ附シ以テ其意ヲ補フヲ可トス又第四號議按ノ「其説明ニ服セザルハ云々裁決ヲ乞フ」ヲ得トアルモ亦不可ナリ宜ク之ヲ原

按ニ復舊スヘシ否ヲサレハ却テ官民ノ際抗抵ヲ生スルノ恐レアリ
兩者共ニ修正アラシコヲ希望ス

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第八號以下第十一號迄ヲ連
帶シテ問題ト爲ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第八號議按

明治十一年第十八號布告第十三條第五款增加并第十四條但書

改正按

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者ハ撰舉人タルコ
ヲ得ス

第九號議按

明治十一年第十八號布告第十七條改正按

第十七條 撰舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及

ヒ被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投

票多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年

ナラハ圖ヲ以テ之ヲ定ム

但、、、、、

第十號議按

明治十一年第十八號布告第廿四條改正按

第廿四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府
縣外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉
ス

第十一號議按

明治十一年第十八號布告第三十五條修正案

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルキハ其解散ヲ命シタル日

ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第十二號以下第十五號迄ヲ
連帶シテ問題ト爲ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十二號議按

明治十一年第十九號布告第三條中改正增加按

第三條 地方稅、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

一警察、

一河港、、、

一府縣會、、、

一衛生及病院費

一府縣立、、、

一郡區廳、、、

一郡區吏員、、、

第十五號議按

明治十一年第十九號布告第八條增加按

第八條 府縣會若シ豫算ノ議按ヲ議定セサルカ又ハ議按ヲ議定ス

ルニ及ハスシテ内務卿ヨリ閉會若クハ解散ヲ命シタルハ府知

事縣令ノ具申ニ依リ内務卿ハ前年度ノ豫算額ニ據テ徵收セシム

ルヲ得

○八番 細川潤次郎 第十二號議按豫備費ノ注ナル豫算外ニ生シタル「費用」

ノ二字ヲ不足ト改メント欲ス本按ハ前會既ニ熱心痛論セシ如ク十

二費目ノ諸項中ニ物價騰貴等ノ原因ヨリ實地豫算外ニ不足ヲ生ス

ルコアルハ明瞭ナリ然ルニ本按ノ如ク豫算外ニ生シタル費用ト掲

載セハ或ハ十二費目外ノ事項ニ涉ルノ恐レアリ故ニ之ヲ修正セサ

ルヘカラス

○一番 玉乃世履 賛成ス八番ノ修正ハ本按ヲシテ一層明備ナラシムルモ

ノナルヲ以テ之ニ可決アラシムヲ希望ス

○廿六番 伊丹重賢 賛成

○三番 大久保一翁 賛成

○十一番 楠田英世 賛成

○十八番 東久世通禧 賛成

○議長 八番ノ修正說ニ賛成者滿員ナルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 他ニ發議ナシ第十二號八番ノ修正說ニ同意者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正說ニ決シ仍ホ第十三號ヨリ第十

五號迄ニ異議アル者ハ之ヲ陳フヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第十六號以下第十九號迄ヲ
連帶シテ問題ト爲ス

書記官 森山 茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第十六號議按

明治十一年布告第九條增加按

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル會計ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣
令ヨリ内務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ會計ト之ヲ分別
スルコトヲ得

第十七號議案

明治十一年第三十九號布告第一條改正按

第一條 營業稅目左ノ如シ其制限金十五圓以內トス

但國稅アルモノヲ除ク

會社

卸賣商

仲買商

小賣商

雜商

第十八號議按

明治十一年第三十九號布告第二條中改正增加按

第二條 雜種稅、

製造所 壹ヶ年 金拾五圓以內

船、

市場演劇其他興行、

遊技場、

料理屋、

質屋兩換屋爲換店共 陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者 壹ヶ年 金拾

圓以內

古着、

湯屋、

遊藝師匠、

俳優、
幫間、
水車、
乘馬、
屠畜 壹頭ニ付金五拾錢以內

第十九號議按

明治十一年第三十九號布告第三條改正按

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若

シ其例規ヲ改正シ又ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決

議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受

クヘシ

○廿九番 柴原和 第十六號議按中會計ノ文字穩安ナラス仍テ按中兩個

ノ會計ノ字ヲ經費ト改メ第一條ト同一文例ニ爲スヲ可トス

○十八番 東久世通禎 賛成

○廿五番 河田景與 賛成

○八番 細川潤次郎 賛成

○廿六番 伊丹重賢 賛成

○十三番 楠田英世 賛成

○議長 廿九番ノ修正說ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○九番 神田孝平 會計ノ二字ハ穩安ナラスト雖モ經費ト云フキハ意味狹

隘ニシテ單ニ支出ノミヲ示スカ如シ故ニ本按ニテ妨ナシトス

○議長 發議盡キタルヲ以テ廿九番ノ修正說ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ廿九番ノ修正說ニ決ス

○外番一 今村和郎 第二讀會ニ方リ第十八號議按製造人ヲ製造所ニ作り

職工削除ノ說ニ可決セリ業已ニ反覆討論ヲ費セシ如ク之ニ可決セ

ハ恐クハ許多ノ不都合ヲ生ス可シ仍テ復々原按ノ如ク修正アラシ

トヲ希望ス

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第廿號ヨリ第廿二號迄ヲ連

帶シテ問題ト爲ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二十號議按

明治十一年第三十九號布告第六條削除

第二十一號議按

明治十一年第三十九號布告第七條增加按

第七條 凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ

上リ高見積リヲ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第廿二號議按

明治十一年第三十九號布告第九條增加按

第九條 第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ第廿三號ヲ以テ問題ト爲ス

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第廿三號議按修正

區町村會法布告按（沖繩縣ヲ除ク）

第一條 區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ規則ハ其區町村ノ便宜ニ從ヒ之ヲ取設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

第三條 數區町村聯合會ヲ開クモハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設

ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ノ(戶長ハ郡區長ヲ經テ)指揮ヲ乞フコトヲ得

第五條 數區聯合會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ數町村聯合會ノ評決ハ地方ノ便宜ニヨリ戶長又ハ郡區長之レヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルキハ總テ前條ノ手續ニ從フヘシ

第六條 郡區長ニ於テ町村會若シ法ニ背クコトアリトスルキハ之ヲ中止シ其評決ヲ不適當ナリトスルキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ノ指揮ヲ乞フコトヲ得

第七條 府知事縣令ニ於テ區町村會及ヒ聯合會若シ法ニ背クコト

リトスルキハ之レヲ中止スルコトヲ得又ハ之ヲ解散シテ改撰セシ

○十ムルコトヲ得

第八條 水利土功或ハ公供ノ水利土功ニシテ全町村ノ利害ニ關涉セス

ハ利害ニ關係ナキモ從來組ノ爲メ町村會ノ決議ヲ以テ其關係ア
合等ノ慣行アルモノヲ云フ

○ル人民若クハ町村ノ集會ヲ要スルキハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則

ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

第九條 第八條ニ掲ケタル集會評決ヲ施行及ヒ其取締ハ第五條及

○廿七第七條ニ依ルヘシ

第十條 第三條及ヒ第八條ニ掲ケタル集會ヲ要スルキ其關係アル

區町村若クハ人民中異議アリテ其集會ニ應セサルキハ府知事縣令之ヲ府縣會ニ付シ其決スル所ニ依リ之レヲ定ムヘシ

但府縣會ノ閉會ニ當リ其開會ヲ待ツヘカヲサルルハ府知事縣令之ヲ決定スルコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ開會ニ於テ之ヲ報

告スヘシ

○廿九番柴原和第二讀會ニ方リ本官ハ本按廢棄ノ論ヲ主張セシト雖

モ少數ヲ以テ其說ハ消滅セリ然ルニ本按ハ十一年第十九號布告第三條ニ矛盾スルノ嫌アリ太々備明ナラストス

○議長廿九番ノ說ハ廢案ヲ論スルニ在ルカ將々單ニ所見ヲ陳述セシニ止マル乎

○廿九番柴原和單ニ所見ヲ陳ヘシ迄ナリ

○十七番秋月種樹本按第四條括弧ノ上ナルノ、字ハ其下ニ轉移セント

欲ス僅ニ位置ノ轉換ニ止ルニ因リ議長ノ特權ヲ以テ之ヲ改正アラ

シコトヲ希望ス

○八番細川潤次郎僅々一字ノ修正ト雖モ大ニ意味ノ變換ニ關ス故ニ衆

議ニ間フヲ允當トス仍テ建議ス

○議長ノ、字ノ位置ニ就キ十七番ノ修正ニ同意ノ者ハ起立セヨ

○起立者十一人

○議長多數ナルヲ以テ十七番ノ修正說ニ決ス

○八番細川潤次郎第九條ニハ第五條及ヒ第七條ニ依ルヘシトアリ而シ

テ第五條ニハ前條ノ手續ニ從フヘシトアリ思フニ第四條則チ之カ

本根ニシテ第五條ハ乃チ枝葉ナリ然ルニ第九條ニハ其本根ヲ閣キ

枝葉ヲ引用スヘシト云フ者ノ如シ蓋シ是レ第八條ノ水利土功云々

ヨリ斯ク起因セルモノナラン然リト雖モ今陳述スル如キノ不都合

アルヲ以テ第九條第五條云々ヲ第四條ヨリ第七條迄ノ手續ニ從フ
ヘシニ作ルヲ可トス

○一番 玉乃 世履

賛成

○廿六番 伊丹 重賢

賛成

○三番 大久保 一翁

賛成

○九番 神田 孝平

賛成

○廿九番 柴原 和

賛成

○議長 八番ノ修正說ニ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十七番 秋月 種樹

八番ノ修正說ハ所謂白璧微瑕ナルモノナリ已ニ前會

ニ八番ノ發議ニ因リ第五條ノ第四條云々ヲ前條云々ト修正シタリ

然ラハ第九條ノ第八條云々ハ前條云々ニ作り而シテ目下ノ問題ノ

如クセハ實ニ完全ナルヘシ是レ原ヨリ瑣々タル事ナルヲ以テ別ニ

修正ヲ提出セス同ク八番ノ說トシテ決ヲ取ラル、モ可ナラン

○八番 細川 潤次郎

十七番ノ修正說太タ是ナリ本官ハ前會同一ノ精神ヲ

以テ修正ヲ提出ス可キニ偶爾之ヲ逸セリ其採決ハ孰レニ歸スルモ

第八條ヲ前條ニ作ルハ本官ノ固ヨリ希望スル所ナリ

○二番 齋藤 利行

十七番ノ說ハ八番ノ修正說ト混同シテ決ヲ取ルモ十七

番ニ於テハ異議ナカルヘシ仍テ合セテ決ヲ取ランコトヲ建議ス

○一番 玉乃 世履

第八條ヲ前條ト爲スハ本官亦之ヲ賛成ス

○議長 八番ノ修正說ハ一旦問題トナリタレトモ十七番ノ第八條ヲ

前條ニ作ルノ說ハ八番ノ前說更正ト看做スヘキカ之ヲ分別シテ決

ヲ取ランカ其更正ト看做スニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ其更正ト看做シ更ニ八番ノ修正説ニ同意ノ者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ八番ノ修正説ニ決シ更ニ第廿三號第一條ヨリ全第十條迄ノ決ヲ取ラン本案ニ同意ノ者ハ起立セヨ

起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決シ之ヲ確定決議ト看做シ修正ノ理由ヲ具ヘ例ニ遵ヒ上奏スヘシ

由ヲ具ヘ例ニ遵ヒ上奏スヘシ

○十三番 楠田 英世 特別ノ建議ヲ爲サン府縣會ト區町村會トノ權力ヲ比較セハ太々軒輕アルヲ覺フ之ヲ文明諸邦ニ徴スルニ邑州國三會ノ

内最モ其勢力ヲ有スル者ハ邑會ナリ迺チ我カ十二費目ノ如キハ概

シテ邑會ニ於テ議定スル所ナリ今我議會ノ形況ヲ顧ミレハ府縣會

ノ勢力特リ熾ニシテ區町村會ノ權力ハ實ニ微々タル者ナリ仍テ本

官ハ更ニ意見書ヲ提出シテ以テ議會ノ目途改更ヲ請フノ日アラン

トス其事本按ニ關係アルヲ以テ今豫メ之ヲ陳スルコト爾リ

○議長 十三番ノ建議ハ追テ意見書トシテ之ヲ提出シテ可ナリ本日

ハ散會セヨ

午後零時第五分開場

元老院會議筆記明治十三年三月十六日
 一讀會 檢視ノ後之ヲ開ク
 議長 大木 喬任
 出席議員
 一番 玉乃 世履
 二番 齋藤 利行
 三番 大久保 一翁
 八番 細川 潤次郎
 九番 神田 孝平
 十番 水本 成美

元老院會議筆記明治十三年三月十六日

○第一百七十五號議按 地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第第

一讀會 檢視ノ後之ヲ開ク

議長 大木 喬任

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保 一翁
- 八番 細川 潤次郎
- 九番 神田 孝平
- 十番 水本 成美

十二番	岩下 方平
十五番	大給 恒
十六番	林川 友幸
十七番	秋月 種樹
十八番	東久世 通禱
十九番	津田 甘出
出淵 官 廿一番	河瀬 真孝
廿四番	山口 尙芳
廿五番	河田 景與
廿六番	伊丹 重賢
楠本 正隆	

三十番 鶴田 皓

○議長 第七十五號議按中備荒儲蓄法布告按第一讀會ヲ開ク例ニ

據リ發言ス可シ 書記官 森山 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按 備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度(明治十四年)ヨリ施行候條明

治八年(七月)第百廿二號達窮民一時救助規則及同十年(九月)第六十二號布

告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

但東京市街ノ如キ郡村ト其趣ヲ殊ニスルモノハ府縣會ノ決議ヲ

府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラ
ス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限
ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給
スルハ一戸十圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸二十圓
以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却ス
ルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ニ於テ一ケ年ノ
儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内

務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條

従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル
所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條

各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條

府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏兩卿ニ
報告シ兩卿ハ毎年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條

此方法ハ二十ケ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存

在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ
 ○廿七番補本 正隆 内閣委員ニ質問ス抑備荒儲蓄法ノ如キハ固是情誼ニ
 出ツルモノニシテ肯テ法律ヲ以テスヘキモノニアラス要之ニ第一
 本按ハ尋常ノ理ヲ以テ儲蓄ヲ爲サシムルコトニシテ其外面ヲ論セス
 其内情ヲ以テ爲シタル事カ又凶荒ノ保護ハ金ヲ與フルノミニアラ
 スシテ所謂世話ヲ爲スノ主意ナルカ第二ニハ貧民ヲ救フノ各アリ
 ト雖モ其實ハ租税ノ欠ヲ補ハシムルノ旨意ニ似タリ然ルニ從來地
 租延納等ノ規則アリ若シ其儲蓄ヨリ之カ扶助ヲ爲サシムルト云ハ
 政府ハ更ニ金ヲ出ストナシ故ニ從來ノ習慣ニヨリ人民ヲシテ互
 ニ相救ハシムルモノニシテ租税ノ欠ヲ補ハシムルニハアラストス
 ルカ其精神將タ何クニ在ル請フ之ヲ辯セヨ

○番一外 矢野 文雄

廿七番ノ問ハ第一政府此法律ヲ播クハ何ノ理由ナリ
 ヤ第二ハ窮民一時救助地租延納等ノ規則ヲ合一セシハ何故ナリヤ
 トノ意ナルヘシ其第一ノ答ヲ爲サニ政府ハ補助金ヲ與フル共同
 ノ性質ヲ以テ法律ヲ設ケタルニアラス即チ政府ハ金ヲ與ヘサルモ
 其職務ヲ以テ法律ヲ設ケタルモノナリ第二ノ答ハ凶荒ノ儲蓄法ニ
 地租ノ補助窮民ノ救助ヲ合一セサルモ可ナルカ如シト雖モ現ニ良
 民ニシテ一時ノ災ニ罹リ生活ヲ爲ス能ハサルモノヲ救助スルコト
 リ蓋シ其災ハ風火震水ノ四ツニシテ全國ノ凶荒ヲ招クハ皆此四原
 因ニ由ラサルハナシ然ルニ今一方ニハ救助シ一方ニハ救助セス又
 一町村ハ人民ノ金ヲ以テシ一府縣ハ政府ヨリ救助スト云ハ、其區
 劃ニ就テ爭証ヲ生スヘキ必セリ故ニ大小トモ同一ノ原由ナレハ

之ヲ同一ニ救助セントス然レモ人民ノ金ノミニ依頼セバ政府ノ負擔ヲ輕クスルノ嫌ヒアルヲ以テ政府モ亦多金ヲ出シ之ヲ混同シテ以テ事ヲ爲サントスルナリ其地租ヲ補助スルノ意モ前説ト同シ彼ノ延納規則ノ施行ハ僅ニ二三年間ナルヲ以テ猶未ダ大ナル困苦ヲ見ハサハルカ如シト雖モ已ニ十ヶ年賦タレハ漸次迫切ニ至ルヘシ今現ニ其困苦ノ端緒ヲ顯ハセリ之ヲ要スルニ本按ハ此三ツヲ合セ混和流通スルノ便益ヲ與ヘタルモノナリ
 ○一番 玉乃 世履 明治八年第百廿號ニ就テ政府ヨリ救恤ニ消費セシ金額ト地租延納規則ニヨリ政府ニテ償ヒタルモノトヲ比スルニ第百廿號ノ消費ハ全ク還納セサルモノナルモ延納規則ノ分ハ必ス還償スルモノトス其收支計算ハ如何

○番 矢野 文雄 其簿記未ダ調ハサルヲ以テ明治八年前ニ遡リ其統計ヲ爲スハ難クレモ九年以來ヲ平均スレハ一年ニ窮民救助四十萬圓弱地租延納ハ二十二萬圓ナリト聞ケリ其納メ得タルモス不僅々ナルヲ以テ之ヲ畧ス即チ合計六十五萬圓以内ト看テ可ナラシカス
 ○廿四番 山口 尚芳 非常凶荒ノ爲メニ儲蓄ヲ爲セントスルハ本官モ同按ナリ又人民トモニ遵奉スヘキ法令ヲ定ムルモ亦同按ナリ然レモ本按ノ如キハ其起草ノ精神將タ何レニアリヤ本官ハ之ヲ探求スルニ苦及メ若シ此ノ如クシハ或ハ廢按ト爲スモ可ナラシ抑法律ハ國民同等ノ權理ニヨリ之ヲ定ムルヲ以テ原則トス奉邦ノ如キ從來華士族ニ閏刑アリテ特別ノ權利ヲ有セシモ今ヤ法律改正ニ方リ將ニ國民同一ノ權利ニ復セントス然ルニ本按第一條ヲ閱スルニ其地主

○トミニ救助ノ義務ヲ負ハシメタルハ何ゾヤ蓋シ法律ハ義務ト權利トヲ定ムルモノニシテ其地主ヲミニ此義務ヲ負シメシトスルハ國民同等ノ義務權利ト云ヘカラス是法律ノ原理ニ違フニアラスヤ若シ其時若クハ其處ニ爲ノミトセハ解スルヲ得ルモ之ヲ全國ニ關涉スト云ヘハ即チ一般人民同等ノ權義ニ依ラサルヘカラス例ヘハ茲ニ人アリ本按ヲ不可トシ之ヲ訴フルモアラハ裁判官ハ如何シテ之カ判決ヲナサシ又人アリ我何ヲ爲ニ他人ヲ救フヘキヤト問ハ如何之ニ答フ可キゾ故ニ此按ヲ立シトナラハ特リ土地ヲ有スルモノハミナラス其工商ヲ問ハス之ヲ課スルトセハ蓋シ公平ナラシ是本官カ本按ノ主意ヲ探ルニ惑フ所以ナリ然レモ凶荒ノ豫備ハナカルヘカラス其豫備ハ乃チ全國ノ人民一般ニ負擔シテ可ナリト思定

スルナリ

○外一番矢野文雄廿四番ノ地主ニフミ出サシムルハ不公平ナリトノ説

ハ内閣ニモ已ニ其議ナキニアラサリシ然レモ元來多ク便益ヲ受ルモノハ重ク義務ヲ負ヒ寡ク受クルモノハ從テ輕ク之ヲ荷フ又理ナリ故ニ土地ヲ有セサルモノハ唯食料小屋掛料ノミヲ受ケ土地ヲ有スルモノハ之ニ反シ其他農具種穀ヲ受ケ又罹災ヲ爲メ地租ノ貸與ヲ受クルコトヲ得是畢竟四十萬圓ハ政府ヨリ出シ九十萬圓ハ全國土地ヲ有スル人民ニ負ハシムルモノナリ而シテ其四十萬圓中ニハ地ヲ有セサル人民ヨリ出セシ金モ亦含蓄セリ又小作人ニシテ補助セラレハモフハ地主モ亦間接ニ其便益ヲ受ルナリ何トナレハ此方法立サルハ地主自カラ之ヲ貸與セサルヲ得サレハナリ此ノ如キ理

由アリテ地主ニ得ル所ノ便益大ナルヲ以テ其負フ所ノ義務モ亦從テ少ナカラサレハ肯テ之ヲ不公平トハ云ヘカラス

○八番 細川潤次郎 本官ハ字ヲ讀テ意ヲ解シ更ニ質問ヲ要セス然レ本按ハ頗ル穩妥ナラス今大ニ修正ヲ加フルトキハ或ハ可ナルヘキモ原按ノ如クハ到底施行スヘカラサルモノトス抑本按ハ條數多ク種々ノ意ヲ含蓄スルヲ以テ未タ何レヨリ論スヘキヤヲ見出サスト雖此之ヲ要スルニ法理ニ於テ太タ不當ナルモノアリ蓋シ儲蓄ヲ爲スハ可ナリ又何ノ爲ナリト問フニ賑恤ノ爲メナリト云ハ、是亦可ナラサルハナシ本官固ヨリ此ニ原理ヲ嫌フニアラス只法律ヲ以テ之ヲ行フヘキモノニアラスト爲スレミ其理由ハ廿四番ト稍同一ナリト雖此猶其異ナル所ヲ述ントス夫儲蓄ヲ爲スニ政府ヨリ多金ヲ

出スハ先ツ可ナリトスルモ人民中唯地主ノミニ出サシメ而シテ其地主ニアラサルモノモ之ヲ分ツト得ルト云フハ其何ノ故タルヲ知ラス然ルニ内閣委員ハ地主ハ便益ヲ受ルト多シト云ト雖モ多ク地ヲ有スルモノハ其度支モ亦從テ多ガルヘシ必ス富ムヘカラサルモ貧ヨリハ富ムヘシ之ヲ斷言スレハ則チ富ヲ分チテ貧ニ與フルト云フモ本官ノ熱心嫌フ所ノモノ是ナリ蓋シ道德上ヨリスルハ可ガリ已ニ一家アリ施スニ仁慈ヲ以テスルハ甚タ善良ナルコニアラスヤ然レ此之ヲ法律ヲ以テ強ルハ大ニ財產所有權ヲ害スルニ至ル昔野蕃ノ時ニ於テハ各自此所有權ナルモノナク一般ニ共同物ノ形ヲ爲シ本邦ニモ僻島ニ至ラハ今猶其餘風ヲ存スルモノアリ故ニ島地ニハ大富モナク大貧モナシ即チ古昔ノ野蕃モ亦此ノ如クナ

ルヘシト想像セラル元來勞力ノ奉酬トシテ得ル所ノ財産ナルヲ以テ其所有權ナルモノヲ設ケシハ專ラ文明ノ功ニシテ各國是ニ由テ立チ各民之ニ依テ安居ス故ニ法律ニ盜ヲ爲スモ可ナリト掲ケタルノ國アルヲ聞カス蓋シ人ノ物ハ我物ニアラス我物ハ乃チ我物タリ已ニ此理由アリ何ヲ以テ地主ハ人ヲ救ハサルヘカラスト爲スマ解ス可ラサルノ甚シキモノナリ然レモ茲ニ外患若クハ内憂アリテ陸海軍費ノ不足ヲ補フカ爲メ之ヲ出サシムト云カ如キニ至ラハ其何レノ國ニ於テモ亦止ムコトヲ得サルモノトス已ニ國稅アリ地方稅アリ營業雜種兩稅アリ尙且協議費戶數割等アリテ出スヘキモノ、品目備ハラサルコトナシ然ルニ今其爲スニ及ハサルコトヲモ法律ヲ以テ之ヲ爲サシメ若シ之ニ背クモノアラハ即チ亦法律ヲ以テ罰セサル

ヲ得ス之ニ反シ道德上ヨリ之ヲ看レハ他人若シ金ヲ貸サ、ルモ肯テ之ヲ訴フルノ權ナキカ如ク區別判然其理固ヨリ奪フヘカラス抑教育ヲ以テ道德ヲ勸ムルノ方法アルモ之ヲ爲サ、ルヲ罰スルノ法律アルヲ聞カス是本官ノ本按ヲ不可トスルノ主眼ナリ又其財產權ヲ害スト説カハ論者必ス云シ是乃チ人民共同ノ費ニ用フルヲ以テ妨ケナシト然レモ政府ヲ立ル等ノコトヨリ共同ノ費ヲ出スハ本官モ亦肯テ否トセサルナリ唯本按ノ如キ其政府ヲ立ルカ如キ切要ナルコトニアラサルハ勿論凶荒罹災ノ爲ニハ已ニ地租延納規則及ヒ一時救助法等アリテ若シ自立スルコト能ハサルモノアレハ乃チ之ヲ救フヲ得ヘシ而シテ其之ヲ救フハ皆其國稅ヨリ支出スルモノナリ各法已ニ備ハレリ孰ソ本按ヲ立ルヲ須ンヤ蓋シ此ノ如キ類ヲ舉ゲ之

ヲ共同ノ義務ト稱シ以テ法律ヲ設クルカ如キハ之ヲ支那流ニ喻ハ
 所謂墨子ノ説ニシテ孔子ノ徒ハ嫌惡スト本官等之ヲ幼時ヨリ記
 憶セリ又目今西洋ニ於テハ社會黨ナルモノアリ只貧人ノ便益ヲミ
 ラ主張シ其貧人カ富人ヲ打破スルノ勢ヒ驥々トシテ侵入スルハ實
 ニ寒心スヘキナリ之ヲ要スルニ貧民ヲ救助スルハ道德上ノ事ニシ
 テ之カ爲メ法律ヲ設クルハ道理ニ反セリ但古昔ハ或ハ之アリシナ
 ラン彼ノ義倉ノコハ已ニ大寶令ニ見ヘ其注ニ云ク富ヲ分ツテ貧ニ
 賑ス其意義ニ近シトアリテ當時之ヲ可トセルナルヘシ而後封建ノ
 時ハ各藩其制ヲ異ニスルモ畢竟貧ヲ救フノ道アリテ到底法律ヲ以
 テ驅ルコトハアラサルナリ維新以前ハ義倉ノ如キモノアリシモ既ニ
 廢セリ若シ今ニシテ其事存在セハ本官ハ痛ク之ヲ廢斥セントス故

ニ本按ハ惣テ廢棄スルヲ可トスト雖モ萬一廢スルニ至ラスハ大
 ニ修正ヲ爲サレハ之ヲ施行スヘカラストス

○一番^{玉乃} ^{世冠} 八番廿四番ノ説アレ

此本官ハ反對ノ意見ニシテ今日ノ

時態ニ於テハ能ク思量ヲ加フヘキコト考フ前ニ本按ノ件ニ就テ年
 々出ス所ノ金額ヲ質問セシニ政府ノ國庫ヨリ出セシモノハ平均年
 々四十萬圓未滿トシ又地租延納ハ大抵二十萬圓内外ナリト抑維新
 以來會計困難ナル際ニシテ救助ト延納トニ費スモノ合テ六十萬圓
 ノ多キヲ致シ猶且政府ハ保護ノ意ヲ厚クセシカ爲メ其倍數ナル百
 二十萬圓ヲ出スノ法接ヲ下付セラル、ニ至ルハ實ニ美事ト謂フハ
 シ但政府ハ此金ヲ出スニヨリ人民モ若干ノ金ヲ出スヘシト云フハ
 本官モ亦異議ナキ能ハス必ス修正ヲ加ヘシト欲スルナリ八番ノ財

產所有權論ハ一應其理アリト雖正彼ノ德川氏ノ代ヲ顧ミ當時政府ト人民トノ間ニ存スル所ノ救荒ノ模様ヲ索ヌルトキハ若シ此法ナクシハ人民ノ景況ハ何如ナリシヤハ推テ知ル可シ蓋シ該時代ニ在テハ政府ハ之ヲ救フヘキモノト定メ人民ハ之カ救ヒヲ得ヘキモノト心得タルナリ明治初年ニ至リ始メテ之ヲ廢スルノ法律ヲ頒布セラル本官當時民部省ニ在リテ即チ八番下同一ノ思想ヲ以テ英佛ノ實況等ヲ引証シテ救助ハ人民ヲ無氣力ニ導クモノニシテ之ヲ受クルモノハ惰民貧民ノ精神ナリト論到セリ然レモ一切之ヲ救助スヘカラスト爲サハ遂ニ盜賊製造ノ法ヲ設クルト一般ナリト思ヒ茲ニ及ヘハ寧ロ前説ヲ舍テ後説ニ由ラサルヘカラス之ヲ要スルニ獎勵主ニハ無氣力ト云フヘキモ救助ナクシハ全ク食ヲ得ルコト能ハス如

何ナル嚴法ヲ以テ處スルモ相率ヒテ盜賊トナルハ論ヲ待タサルナリ今此國庫困難ナル時機ニシテ尙且百廿萬圓ヲ出シテ救助ノ法ヲ立ツルハ寔ニ結構ナル旨趣善良ナル法律ト云サルヘカラス然レモ政府モ金ヲ出スニヨリ人民モ亦之ヲ出スヘシト云フハ不満足トス仍テ第二讀會ヲ待テ修正セヨト欲スルナリ

○二番 齋藤 諸説紛起スルカ中ニ廿四番ノ地主ノミ金ヲ出サシムルハ不當ナリトノ説ハ本官モ既ニ同感ナリシニ内閣委員ヨリ政府出ス所ノ百廿萬圓中ニハ地主ニアラサル者ノ出セシ金モアリトノ説明ヲ得テ始テ之ヲ了解セリ又廢按説ノ意趣ニ於テハ太々明瞭ナリト雖モ本按ノ精神ハ全ク第二條ニアルヲ以テ本官ハ之ヲ否ト爲サズ故ニ本會ノ規則ニヨリ本按ヲ可認スルヲ大意ヲ述フ

○廿四番山口 二番ハ本官ノ説ヲ廢按ノ意ニ認ムト雖正全ク然ルニ
 アテス其救助ノ精神ハ素ヨリ本按ニ左祖スルモ只地主ノミニ出サ
 シムルトセハ例ヘハ越後奥羽ノ如キ一人ニシテ許多ノ地ヲ有スル
 モハハ一_一地數村或ハ一人ニシテ其義務ヲ負フニ至ルモ知ルヘカラ
 ス是太々不都合ナリト云フナリ茲ニ本官ハ特別ノ建議ヲナサント
 ○ス本按ハ各位必ス修正ノ説多カラント認ム仍テ全部付托ノ委員ヲ
 設ケ充分ノ修正ヲ加ヘシコヲ希望ス

○九番神田 本官モ廿四番八番ト同意ナリ地ヲ有スルモノヨリ云々
 ヲ説ニ至リテハ尤モ八番ニ同意ス抑政府ヨリ金額ヲ出シテ罹災者
 ヲ救助スルハ別段ノコニシテ政府ハ之ヲ爲サ、ル可ラサルノ道理
 ナリ蓋シ我邦古來政府ト人民ノ間ハ殆ト父子ノ如キ組織ヲ以テ成

立スルカ故ニ人民ノ天災ニ罹ルモノヲ救フノ方法ナカルヘカラサ
 ルハ乃チ父ノ子ヲ拯フト同一ノ理趣ナリ従前既ニ其方法アリ今若
 シ之ヲ廢セハ更ニ適宜ノ方法ヲ設ケサルヘカラス但本官ノ精神ハ
 此ノ如キハ堂々タル法律ヲ以テスルヲ要セス乃チ内務大藏兩省ニ
 於テ別ニ方法ヲ設ケ地方官ヲシテ之ヲ管理セシムルヲ穩當トナス
 殊ニ本按中家屋ヲ賣却スルニアラサレハ云々ト掲クルカ如キハ人
 民ノ救助ヲ催促スルノ意ニ近シ仍テ本按ヲ廢シテ別ニ適宜ノ方法
 ヲ設立シテ可ナリトス

○議長 廿四番ノ建議ニ決ヲ取ラントス

○八番細川潤次郎 廿四番ハ賛成者ヲ求メタルナリ本官將ニ之ヲ賛成セ
 シテ欲スルモ本按可否ノ討論尙未タ盡タルニアラス故ニ暫ク其決

クセハ獨リ地租ノ延滞ノミニ止マラス各種ノ税金ヲモ收納スル能ハサルモノヲモ救護セサルヘカラサルノ理アリ故ニ其政府ヨリ出ス所ノ百二十萬圓ヲ以テ之ヲ補ハントスルモ恐ラク其不足ヲ生セシ然ルニ今本按ヲ以テ夫ノ地租延納規則ニ換ントスルモ決シテ換フヘカラサルモノニシテ此等ハ修正委員ノ尤モ精神ヲ惱マス所ナラン已ニ善良ナル修正ヲ得更ニ議定ノ後實際施行スルニ於テハ論ナシト雖モ若シ善良ナル修正ヲ得スシテ終ニ廢按トナルニ至ラハ亦如何トモスヘキナシ論シテ此ニ至レハ寧ロ今ニシテ斷然廢按ト爲サシカ

○八番 細川潤次郎

廿四番ノ建議ハ其時機少ク早ニ過キタリ何トナレハ未タ可否ノ討論盡サルノ間ナレハナリ廿七番ハ廢按ノ説ヲ發スト

雖モ第一讀會ハ質議討論ニ止マリ廢按ハ第二讀會ニアラサレハ之ヲ爲スヘカラス又一番ハ曾テ民部ニ奉職ノ事歴ヲ述ヘ當時ニ在テ救助ノ法ハ地ヲ拂フニ如カスト説キシモ今ヤ然ラスタトヒ乞食世界トナルモ寧ロ盜賊世界トナルヲ欲セストノ意ヲ以テ論スト雖モ決シテ否ラス今本官カ論スル所ノ如クセハ道德社會トナルニモアラス乃チ自治精神ノ社會トナルノミ故ニ其之ヲ廢按ト爲スモ一時救助ノ法アリ地租延納ノ法アリ又地方稅費目中ニモ救育費アリ且政府ヨリ別ニ國稅中幾分ヲ以テ之ヲ救助スルモ可ナリ但本按ノ如キ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ更ニ貸與ノ典アルハ猶負債ヲ返還スル能ハサル者ニ金ヲ追貸スルカ如シ是救助ノ分界ヲ過キタリト謂ハサルヲ得ス又水災虫害等ノ類ハ地租延納ノ方ニ入ルヘキモノニ

シテ舊法ノ方遙ニ勝レリ若シ新法ノ如クセハ誤ツテ其救恤ノ分界ヲ度越シ墨子ノ説又ハ社會黨ノ論ト同一ニ販シテ古昔ノ野風ニ陷ルノ恐レアリ且本按第二條ニ至ツテハ恰モ乞其隣與之ト云ニ何ソ異ナラン既ニ詔ニヨリ地租ハ百分ノ二分五厘ト定マリ尙且學校費協議費等アリテ其上ニ超過シ假令些ヤノ費用ナルモ頻々出シタル上更ニ之ヲ出サシムルハ人民ノ困却モ亦察セサルヘカラス殊ニ政府ノ出ス金額ヨリ少カラサルヲ要スト掲クルルハ其多キハ何許ニ上ルモ知ルヘカラス亦上ラシムルモ妨ナカルヘシ若シ全部修正ト決セハ此等ハ主トシテ訂正セサルヘカラサルモノナリ然ルニ前ニ内閣委員ノ説明中ニ救恤費ハ平均年々四十萬圓トアリ本官聞ク所ニヨレハ明治十年三十九萬圓弱十一年ニ三十萬圓強ト云之ヲ平均

スレハ三十六萬圓乃至七萬圓ニ過サルヘシ仍テ内閣委員モ亦明瞭ナル牒簿ナキヲ以テ分明ナラストノ辯明ハ尤モナルコトニテ假令分明ナルモ決テ之ニ依準スルニ足ラス何トナレハ其間全國ノ凶荒ト云ヘキ厄歲アリシコトナケレハナリ良シヤ爾後ニ至リ之レアリトスルモ亦是偶然ノコトナリ今百二十萬圓ハ實ニ巨額ナラサルニ非サルモ若シ全國眞ノ大凶荒ニ遭遇セハ素ヨリ之ヲ以テ救フ能ハサルヤ言ヲ待タス或議官ハ今回政府出ス所ノ金額ハ從來出金ノ數ヨリ多キヲ以テ善美ナリト云フ已ニ明治元年以來ノ如キ平年ノ順季ヲ得ハ或ハ然リ然レ而夫ノ天明天保度ノ如キ非常ノ凶荒ニ遭ハ、如何シテ之ニ應スヘキヤ人民ヨリ之ヲ看ルモ亦甚タ危險ナルコトニテ決テ安堵スヘカラサルモノナリ故ニ從來ノ如クダトヒ此法ナキモ政

府ハ已ニ凶荒ヲ救フノ方法アレハ却テ人民ハ安心之ニ依頼スヘシ
 ○外番 矢野 八番ハ事理ヲ以テ舉論セリ故ニ事理ニ由テ答ントス
 盖シ備荒法ハ政府職務ノ内ナルカ將タ外ナルカノ點ニ出テサルヘ
 シ而シテ未タ其區域ヲ論シタル學者ヲ見スト雖_レ之ヲ要スルニ其
 職務ハ害ヲ防キ利ヲ興スノ二ツニアルノミ既ニ害ヲ防ク爲メニハ
 陸海軍ヲ設ケ又海峽ニハ燈臺モ備ヘサル可ラス但其燈臺ヤ一方ヨ
 リ之ヲ見レハ之ヲ設ケサルモ或ハ害ナク只其不便利ト云フニ過キ
 サルカ如シ勸業モ亦然リ然_レモ其害ヲ防クニ二ツアリ即チ人民互
 ニナスノ害アリ天災ノ害アリ而シテ今日世界ノ實況ニ由レハ人民
 互ヒノ害ノミニアラステ天災時變ノ害モ亦政府ニ於テ之ヲ防カサル
 ヘカラサルモノトス而シテ天災ヲ防クハ利ヲ興スニ非ラスシテ專

ラ害ヲ防クナリ流行病ノ如キ亦然リ故ニ政府ハ之ニ關セス乃チ措
 テ間ハストハ云ヲ得サルナリ然ハ則チ非常ノ凶荒ニ遭ハ、政府ハ
 必ス南京米等ヲ輸入シ大ニ周急_第ノ方ヲ盡スヘシ而シテ其金額不足
 ナルコアラハ法律ヲ以テ之ヲ徵收スルモ亦肯テ妨ケナカルヘシ蓋
 シ其徵收シテ之ヲ防クモ徵收セスシテ人民ヲシテ自カラ之ヲ防カ
 シムルモ同一ノ理ナレハナリ是ヲ以テ之ヲ觀レハ政府ハ決シテ此
 事ヲ爲スヘカラサルノ理ナシ是現ニ事務ノ便益ノミナラス事理モ
 亦正當ナリトス又地稅ヲ補助スル爲メニ貸與スルハ猶負債者ニ迫
 貸スルカ如シトノ論アレモ是ハ幾分カ自己モ出シタル金ナレハ借
 トハ同シカラス夫ノ商法ノ如キハ其目的時ニ違フコアルモ其違フ
 モノハ乃チ自己ノ不熟ヨリ生スルモノナリ地租延納ヲ爲スハ素

是人爲ニアラスシテ天災ヨリ生スル損失ナリ故ニ獨リ此地租ノ
ミニ延納ヲ許スハ果シテ人カノ及ハサル所ヲ補フモノナレハ
ナリ

○議長 廿一番ハ所勞ニヨリ欠席セリ

○廿四番 山口 尚芳

内閣委員ノ政府ノ職務トシテ備荒法ヲ行ハサルヲ得
スト云ハ本官ニ於テモ異議アルコトナシ其出金ノコトヲ論スルニ至リ
テハ縦ヒ一錢タリトモ不條理ノ金ヲ出スヲ欲セス又之ヲ爲サシム
ルヲ欲セサルナリ然ルニ廿七番ハ現行ノ法ニ委シテ可ナリト云フ
カ如キ意ヲ表スト雖モ本官ハ反復研究シテ以テ更ニ善良ノ法按ヲ
立シコトヲ要スルナリ夫本按第六條第一項ニ食料ヲ給スルハ罹災ノ
爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トシ又同

上ノ究民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸十圓以内農具料種穀料ヲ給ス
ルハ一戸二十圓以内トストアリ然ルニ内閣委員ハ農ニ限ルト云ト
雖モ此文ヲ見レハ決シテ農ノミニアラス又第二項ニハ地租ヲ補助
及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租
ヲ納ムル能ハサル者ニ限ルトアリ是人民一般同等ノ權理ニアラサ
レハ能ハサルコトヲ知ルヘシ其第二條ニ至リ但各人ヨリ公儲スルノ
割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金
額ヨリ少カラサルヲ要スト揚ク若シ其地ヨリ出ス所ノ金額政府ノ
賦金ト同等ナリトセハ例ヘハ東京ハ五萬圓ノ割ナレハ府民モ亦五
萬圓ヲ出セハ足レリ此ノ如キ看易キ計算ナルニ何ソ特ニ府縣會ノ
議決ニ付スルヲ要センヤ是府縣會ヲ愚弄スルト云モ誣ルニアラサ

ルヘシ且其中央政府ヨリ出スト云フモ即チ一般人民ヨリ出シタル
租税金ナリ故ニタトヒ此法律ナキモ擧テ之ヲ府縣會ニ托セハ獨リ
地租ノミナラス他ヨリ徴收ズルモ可ナリト議スルモ未タ知ルヘカ
ラス因テ政府ハ單ニ年々其金ヲ積蓄スヘシト布告シ府縣會ヲシテ
其地方ノ都合ヲ料リ之ヲ議定セシメテ足レリトス斯ノ如クセハ誰
カ之ニ不服ヲ唱ヘンヤ願クハ委員ヲ選ミテ全部ヲ托シ大ニ修正セ
ラレシコトヲ

○一番玉乃 世履

本官ハ修正主義ニシテ廢按主義ニアラス八番ハ今タト
ヒ此法按ナクモ依然救荒法ノ存スルアリ百二十萬圓ハ多キカ如キ
モ天災ノ度ハ圖ルヘカラサルヲ以テ決テ多シトナス可ラスト云フ
カ如シ本官深ク此說ヲ玩味スルニ是道理ニ背クヲ以テニアラスシ

テ多ク救荒ヲ爲サント欲スルニアルヲ知ル蓋シ天災ノ度ハ圖ルヘ
カラスト雖モ其統計ヲ爲スハ必ス經歷ニ依ラサルヲ得ス本邦會計
ノ困難ナルハ八年度マテノ大藏省報告書ニ由レハ一目瞭然タリ本
按ノ金額ハ已ニ經歷セシ數ヨリハ更ニ二三倍ヲ出スト云フナリ之
ヲ善美ナリト言スシテ何ヲカ善美ト云フヘケン故ニ徒ニ廢按ト爲
スハ太々惜ムヘキモノタリ然レモ本按ハ完全ナリヤト云ハ、否ラ
スト答ヘサルヲ得ス是人民ニ出金ヲ促カスノ不可ナレハナリ因テ
本官ハ第二讀會ニ於テ之ヲ論スヘシト云ヒシ所以ナリ
○九番神田 孝平 内閣委員ノ說ニ政府ハ利ヲ興シ害ヲ除クノ義務アルヲ
以テ人民ヨリ金ヲ出サシムルノ道理アリト是ニ由テ之ヲ推セハ其
實地租ヲ増スノ道理ニシテ名ヲ備荒ニ托シタルモノ、如シ此ノ如

キハ其根源ニ遡リ即チ我國地租ノ成立ヲモ論及セザルヘカラス何
 トナレハ其何ニ由テ此租額ヲ要スルヤ否ハ人民ニ於テ一切明知セ
 サレハナリ蓋シ政府ハ人民ヲ赤子視シ其相當ト見ル所アラハ之ヲ
 課シ人民モ亦其命ニ從フヘシト雖モ其之ニ堪サルハ輕免ノ儀ヲ
 歎願スルモ不可ナキノ道理アリ若シ然ラハ政府ハ國稅ヲ以テ悉皆
 之ヲ支出セサルヘカラス之ヲ要スルニ名ヲ換テ地租同一ノ出金ヲ
 促カスハ甚タ不可ナリ内閣委員ノ言ノ如クシハ其費用ノ原因ヲ知
 ラシメ其義ヲ明カニシテ後之ヲ施行スルモ未タ晚カラサルナリ然
 レ凡本按ノ如キハ其地租ヲ増シタルヤノ嫌ヒアルヲ以テ必ス紛々
 タル世論ヲ醸成スヘシ仍テ之ヲ施行セサルヲ可トス

○外番 一番矢野 備荒法ヲ以テ仁愛ト爲スハ各位同見ナリ已ニ仁愛ト

セハ其人民ヨリ取立ル金ヲ以テ之ヲ爲ス何ソ仁愛ナラサラン然ル
 ニ一旦之ヲ政府ニ取立而シテ後備荒ノ手當ヲ爲ストセハ或ハ人民
 ハ他ノ費用ニ充ルヤノ疑アリ故ニ政畧上ヨリ之ヲ人民ニ付課シ直
 ニ其費用ニ充テシメント欲スルナリ本按ハ己ニ仁愛ト認メ而シ廢
 按ニ付セントノ說アルハ寧ロ自家撞着セサランカ

○八番 細川 前ニ論シタル如ク本按ハ種々ノ道理錯雜セルヲ以テ
 猶餘論ヲ繼カサルヲ得ス本官ノ備荒ハ可ナレ凡此按ハ不可ナリト
 云フモ自家撞着ノ說ニアラス乃チ他ニ方法アレハナリ抑法律ノ變
 更ハ聊ノ費用ナシトスルモ全國ニ布告スルハ手數ノカ、ルノミナ
 ヲス若シ此法ヲ施行セハ暗ニ租稅ノ幾分ヲ増スモノナリ目下日用
 ノ外他ハ一錢ヲ出スヲモ嫌フハ人ノ常情ナリ況ヤ現行ノ方法ニシ

テ差支ナキニ於テヲヤ畢竟儲蓄ハ勸ムヘクシテ法律ヲ以テ驅ルヘ
 キコニアラス須ラク之ヲ斷念スヘシ倘シ國庫ニ餘カアラハ之ヲ爲
 ス最モ可ナリ本官ハ特ニ之ヲ止メサルノミナラス拍掌シテ賛成ス
 ヘシ故ニ爾後大藏省ニ於テ年々百二十萬圓ヲ積マハ多年ノ後タト
 ヒ非常ノ大災アルモ是ヲ以テ之ニ充テハ必ス其功ヲ奏スヘシ是獨
 リ政府ノミナラス人民モ亦宜ク儲蓄スヘキナリ蓋シ儲蓄ハ種々ノ
 法アリテ大小數ニ關セス之ヲ爲スコヲ得ヘシ乃チ人民ニシテ儲蓄
 アルハ吉凶共ニ臨時ノ用ヲ爲ス必竟政府ハ政府人民ハ人民ニシ
 テ共ニ之ヲ爲スヲ務ムヘシ然ルニ其儲蓄スヘキ金ヲ取立テ關係ナ
 キ人ノ爲メニ費ヤス如キハ大ニ其儲蓄心ヲ失ハシムルニ至ルヘシ
 本官ノ說ニ據レハ政府モ富ミ人民モ富ムヘシ本按ニ從ヘハ政府貧

シク人民モ亦貧シク之ヲ切言スレハ或ハ乞食律トモ云ンカ本官等
 ハ乞食トナルヲ欲セス之ヲ要スルニ本按ハ自進ノ路ヲ塞クノ法律
 ト云フモ不可ナカラシ

○外番一矢野番文雄 新法ヲ設ケサレハ地租延納究民一時救助等ノ二法ハ

行ハル、モ其備荒儲蓄ニ至テハ抑々何ニ由テ行ハレントスルヤ夫
 事理ト便宜ト二者ノ内已ニ事理ニ於テ爲スヘシトナサハ便宜ニ於
 テモ亦之ヲ爲スヘキナリ今政府ヨリ一ノ布告ヲ以テ人民ヲシテ注
 意ナサシムルモ果シテ儲蓄ヲ爲シ得ヘキモノトナスカ是決シテ言
 ヘク行フヘカラサルノ說ナリ蓋シ古今節儉ノ說ハ比々絶ヘスト雖
 モ克ク之ヲ爲シ得サルハ人ノ常ナリ已ニ勸メテ爲スコ能ハス豈勸
 メスシテ之ヲ爲スコ得ヘケンヤ是豫備ヲ爲スト爲サルトノ違ヒ

ノミ但萬國公法ヲ以テセハ政府ヲ指シテ一人ト見ルナリ故ニ人民ノ默許セシコハ乃チ人民ノ爲シタルモノナリ此ノ如ク論及セハ其自由儲蓄ト強迫儲蓄トノ違ヒアルノミナレハ寧ロ強迫ニ出ルモ儲蓄ノ法ヲ設ケ將來ノ凶荒ヲ防キ安全ノ道ニ就カシムヘキナリ八番ハ乞食律ナリト誣ルト雖モ自己ノ金ヲ出シテ自己ノ保護ヲ爲スハ乞食ニアラス若シ之ヲ以テ乞食ト爲サハ保險社ノ如キモ亦乞食ナルカ

○八番 細川潤次郎 内閣委員ハ少ク本官ノ説ヲ誤解セリ本官ノ云フ所ハ本按ノ如クセハ貧人ハ甘ンシテ富人ノ救護ニ依ルト云フノミ自己ノ金ヲ付托シテ之ヲ費スコヲ云フニアラス且人民政府各其財産ニ區別アリ固ヨリ混同スヘカラス即チ政府ハ政府人民ハ人民ニテ之

ヲ爲スヘシト云フノミ收税ハ法律ニ依リ賑恤ハ道德ニ依ルハ普通ノ道理ナリ又萬國公法ニ政府ヲ以テ全國一人ト見ルハ是外國ヨリ之ヲ認ルコニシテ人民ヨリ政府ヲ見ルコニハアラサルナリ本官ノ精神ハ到底政府ハ政府ニテ儲蓄ヲ爲シ手ヲ人民ニ下サ、ルヲ可トスルノミ

○廿四番 山口尚芳 八番ハ初メ本官ノ説ニ賛成シ今又廢按論ヲ爲スハ如何

○議長 八番ハ説ヲ變セシ乎

○八番 細川潤次郎 廿四番ハ本官ノ意ヲ了セス本官ハ午前ニ廿四番ノ賛成ヲ爲サントスルヲ以テ特ニ決議ヲ延テ飽マテ本按ヲ駁シ其修正ニ至ルモ充分利害ノ在ル所ヲ盡シテ以テ該委員ニ托セントスルナ

リ時間ヲ費ヤスカ如キハ固ヨリ厭ハサルモノナリ
○議長 然リト信ス

○八番 細川潤次郎

前説ノ續キヲ述ヘン日本ノ古代ニハ推古天皇ノ時ニ
七 鎌倉ヲ置クトアリ是純然タル政府ノ置ク所ナリ其後常平倉ヲ置ク

コアリ此法タル未タ詳明ナラスト雖モ貫糶廉糶ト云テ即チ人民ノ
爲メニスルモノナリ爾後又本官ノ否トナス所ノ意ニシテ所謂 公府
錢ナルモノアリ是未納ヲ補ヒタルモノトス其他尙例アリ然ルニ政
府ニテ爲スコハ政府之ヲ爲シ人民ニテ爲スヘキハ人民之ヲ爲シタ
ルノ例アリト雖モ官民混同セシコハ未タ之ヲ聞カサルナリ但學校
費ノ如キハ止ムヲ得ス混同スルモ是亦一時ノ支出ニ止マリ多年儲
蓄セサルヲ以テ會計ニ困難ノ生スルコトナシ本按ハ然ラス乃チ第五

條第六條等ノ如キ混雜ナルコトハ豫メ之ヲ初メニ防カサルヘカラス
要スルニ地方ニ慈善者アリテ之ヲ爲ストキハ政府ハ賛成スルニ止
マルヘキノミ

○議長 本按ハ廿四番別段ノ建議ヲナシ且賛成者アリ討論已ニ盡タ
リト認ムルヲ以テ決ヲ取ラントス廿四番ノ説ニ同意ノモノハ起立
スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ナルニヨリ廿四番ノ建議ニ決ス今直ニ委員ヲ選マント
スト雖モ本日ハ議官中所勞及ヒ他ノ公務ヲ以テ欠席スルモノ多シ
之ニ加フルニ議長モ午後ハ登場セス故ニ委員ノ選定ハ後日ニ譲リ
本日ノ會議ハ茲ニ終リ第二讀會ハ委員ノ報告書ヲ得タル後ニ開ク

へシ散會セヨ

午後第三時三十分閉場

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

元老院會議筆記明治十三年四月十三日

○第一百七十五號議按地方官會議ニ於テ議定セシ第三號ヨリ第廿四號ニ至ル議案及ヒ備荒儲蓄法布告按

二讀會

議長細川潤次郎
代理

出席議員

- 一番 玉乃 世履
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 六番 中村 弘毅
- 十二番 岩下 方平
- 十四番 黒田 清綱

- 十五番 大給 恒
- 十七番 秋月 種樹
- 十八番 東久世通禧
- 廿四番 山口 尚芳
- 廿五番 河田 景與
- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 楠本 正隆
- 廿八番 安場 保和
- 廿九番 柴原 和
- 三十一番 箕作 麟祥
- 三十三番 本田 親雄

○二十三日 午前第十一時開場 内閣委員番外 太政官少書記官矢野 文雄

○議長 議長他ノ公用ニヨリ本官代理ヲ爲シ第百七十五號議按中備
 荒儲蓄法第二讀會ヲ開ク然ルニ本按ハ修正委員ノ報告書ト内閣下
 付ノ原按トノ二様アリ今孰レヲ本按トスヘキヤヲ衆議ニ定ムルヲ
 例規トスト雖此之ヲ閱スルニ兩按共ニ大差ナキニ由リ乃チ修正按
 ヲ本按ト爲スヘシ各位其レ之ヲ了セヨ

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度明治十四年一月一日ヨリ施行候條明
 治八年七月第百廿二號達究民一時救助規則及同十年九月第六十二號布

告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

但東京市街ノ如キ郡村ト其趣ヲ殊ニスルモノハ府縣會ノ決議ヲ

經テ政府ノ許可ヲ得別段ノ方法ヲ設クルモ不苦候事

○議長 發議ナキヲ以テ直ニ本文第一條ニ移ル

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

備荒儲蓄法

第一條

備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛

料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ヲ爲メ地租ヲ納ムル能ハサル者ノ租

額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

○二十七番 楠本正隆 本官ハ修正ノ一委員ナルヲ以テ各位ノ發言ニ先タ

チ其修正ノ大意ヲ述ヘントス抑本按儲蓄金ヲ出スモノハ地主及ヒ

農者ノミニ係リ他ノ商賈ニ及ハサルハ偏倚ナルニヨリ茲ニ地ニ偏

セスシテ昔ク之ヲ徵收シ而シテ其如何ハ府縣會ノ決議ニ任セント

欲ヌルナリ然ルニ或ハ地租ヲ補助スルノミナラス又以テ商稅ヲモ

補助ス可シトノ說アリト雖此ノ如キハ本按ノ金額ヲ以テ克ク償

フヘキニアラス因テ其本源ニ溯リ農租ノ補助ヲ止メテ窮民補助ト

爲セリ然レモ又一ノ困難アリ即チ地租延滞ニ影響ヲ來シ遂ニ二三

十萬金ノ不足ヲ生シ勢力甚々微ナルニ至ラン果シテ然ラハ政府ノ

盛意モ亦終ニ消滅センカ本官惟ヘラク政府已ニ巨萬ノ金額ヲ出シ

以テ此事ヲ爲サントスルハ實ニ美舉ナリト雖此中人以下ノ民ハ恐

ラク其盛意ヲ解スル能ハス忽チ增稅ノ感ヲ惹起シ果シテ好結果ヲ

得ヘカラサラント故ニ靜念熟考スルモ自ラ完全無缺ト信スヘキ法
按ヲ勘署スル能ハス遂ニ僅ヤノ修正ニ止マレリ猶詳細ノ辯明ハ一
番ノ陳述ニ讓ル

○一番玉乃
世履

二十七番ノ言ヲ廣キ簡單ナル辯明ヲ爲ス可シ蓋シ第一
條ハ第二條ト牽連スルヲ以テ止ヲ得ス兩條ヲ連絡シテ説明セント
ス先ツ第一條罹災ノ爲メ地租ノ下ニ割註ヲ以テ國稅地方稅トアル
ヲ削除セシハ元來地租ノ名義タル乃チ國稅ヲ指スモノニシテ地方
稅ヲ謂フモノニアラサルヲ以テナリ且當初內閣委員ノ説明セシ如
ク本按ハ土地ニ課スルヲ以テ精神トセリ即チ第六條金員配布ノ差
等アルヲ見テ知ルヘシ地方官會議ニ割註ヲ下セシハ地方稅ヲ納ム
ル能ハサルモノヲ并セテ救フノ主義ニ出テシモノナラン然レモ未

タ公儲ノ爲メ地方稅ヨリ徵收スルノ方法ヲ設ケスシテ偏ニ救助方
法ヲ立ツヘキモノニアラス故ニ本官等其徵收方法如何ヲ講究スル
モ亦遂ニ好案ヲ得ル能ハス蓋シ政府毎歲百二十萬金ヲ出シテ儲蓄
金ヲ補助スルハ則チ人爲ヲ以テ抗拒ス可ラサル天災地妖ニ遇フモ
ノヲ救フノ主義ニシテ其人民ヨリ徵收スルモ亦地租ヲ根元トセリ
然ルニ地方稅ハ營業稅雜種稅採藻稅等ノ各種アリ倘シ原按ノ如ク
ンハ例ヘハ米商等ノ損失ヲ爲シ身代限ヲ爲スモノアルモ猶之ヲ救
ハサルヲ得サルカ如シ此ノ如キハ限リアルノ金ヲ以テ限リナキノ
救助ヲ爲サントスルモノナリ豈其之ニ應スルヲ得ンヤ然レモ其制
限法ヲ立ルモ亦容易ナラス故ニ已ヲ得ス原按ノ刪ル可キハ削リ存
スヘキハ存シタルノミ第二條ハ前陳ノ如ク遂ニ修正ノ道ナキヲ以

テ亦已ヲ得ス原按ニ從ヘリ或ハ云シ政府ハ備荒儲蓄ヲ各トシテ其實租額ヲ増スナリト豈其レ然ラシヤ政府若干ノ金額ヲ出シ人民ヨリ徵收セシ不足ヲ補助スルハ確乎トシテ道理ノ動カス可ラサルモノナリ

○二十八番 安場保和 修正委員ノ説明其意ヲ了解スト雖モ唯此脚註ヲ削リシハ未タ之ヲ詳ニスル能ハス抑地方官會議ニ於テ此脚註ヲ加ヘタルモノハ營業稅等ヲ指スニアラス即チ地租五分一ノ地方稅ヲ指スモノニシテ固ヨリ彼營業者ノ身代限等ヲ救フノ主意ニアラス然ルニ今修正ノ如クシハ遂ニ地租五分一ヲ出ス能ハサルモノハ之ヲ救フヲ得サルノ理ニシテ爲ニ政府ノ仁慈ヲ達スル能ハサルニ至ラシ蓋シ字面ニ就テ之ヲ見ルハ或ハ間然チキ能ハサルモ地方官會

議モ本按ノ如キハ將來國家ノ盛衰ニ關スルヲ慮リ深ク意ヲ實地上

ニ注キテ之ヲ加ヘシモノナリ故ニ脚註ヲ削ルハ不可ナリトス

○一番 玉乃世履 二十八番ハ今脚註ヲ削レハ地租五分一ヲ納ル、能ハサルモノハ之ヲ救フヲ得サルニ至ラント云ト雖モ決シテ其介意ヲ要

セサルナリ何トナレハ救助ヲ受クルモノハ地租ヨリ生スル救助ヲ

受クルヲ以テナリ惟フニ此一辯明ニシテ釋然タラシヲ信ス

○議長 二十八番ハ内閣下付ノ原按ノ如ク脚註ヲ存セントスル意ナ

リヤ

○二十八番 安場保和 然リ

○四番 津田眞道 二十八番ノ用意ハ可ナレモ單ニ地方稅ト記スルハ營業雜種採藻諸稅ヲ包含スルヲ以テ不可ナリ故ニ本官ハ地租ノ下國

税及地價割地方税ノ數字ヲ加ヘントス

○議長 二十八番ノ修正ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○廿八番 安場保和 本官ハ各位ノ或ハ本條ノ主意ヲ誤解アランヲ恐レテ發言セリ故ニ敢テ文字ノ如何ニ拘泥セサルナリ

○二十九番 柴原和 四番ノ修正ヲ賛成ス

○議長 二十八番ハ未タ修正ノ文字ヲ提出セス四番ノ修正説ハ二十九番已ニ之ヲ賛成セリ故ニ二十八番ノ説ハ消滅シ四番ノ説ヲ問題ト爲ス

○二十九番 柴原和 地租五分一以内ヲ補助スルハ善良ノ法ナリ地方税中ニハ數種アルヲ以テ修正委員ハ故ヲニ報告按ノ如ク之ヲ削除セシナルヘシト雖モ願クハ其精神ヲ存センコトヲ

○議長 四番ノ修正ニ同意ハ起立セヨ

起立者四人

○議長 少數ヲ以テ四番ノ修正ハ消滅ス即チ本按ニ決シ直ニ第二條ニ移ル

書記官 森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條

各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ但各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス

○二十四番 山口尙芳 本條地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシムル云々ハ

甚々妥帖ヲ欠ケリ今之ヲ修正セシニ第二條政府ハ每歲百二十萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ト爲ス可シ第四條各府縣ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ヨリ配賦スル金額ヨリ少ナカラサル額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ト爲ス可シニ作り而シテ原按第四條ヲ以テ第三條ト爲サントス此ノ如クセハ秩序整然始メテ法律ノ文体ヲ得ルナリ抑々本按ノ方法ニ於テハ大ニ其宜キヲ得タルヲ以テ各位モ亦其異議ナキヲ信ス何トナレハ大政府ニ集收スルニアラスシテ地方ニ公儲セシムルヲ以テナリ其意ヲ問ヘハ大政府年々金百二十萬圓ヲ支出シテ儲蓄ノ補助ヲ爲シ以テ不慮ノ災害ニ備フルナリ亦美事ニアラスヤ然ルニ布告按題號中東京府市街ノ如キ云々ト掲ケタル格外法ハ是必ス地租幾分ニ當ル云々ヨリ公儲スルモノニアラス若シ此ノ如キハ全國

一般之ニ倣ヒ其格外法ヲ用フルニ至ルモ亦未タ知ルヘカラス果シテ然ラハ本按ノ地租幾分ニ當ル云々トノ意ハ畫餅ニ屬スヘシ冀クハ本官カ修正ノ如クナランコトヲ

○十八番 東久世 通稱

二十四番ノ修正尙一回ノ朗讀ヲ乞フ

○二十四番 山口 尙芳

第二條政府ハ每歲百二十萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ト

爲ス可シ第四條各府縣ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ヨリ配賦スル金額ヨリ少ナカラサル額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ト爲ス可シニ作り而シテ原按第四條ヲ以テ第三條ト爲サントス

○十八番 東久世 通稱

賛成

○議長 二十四番ノ修正ヲ以テ問題ト爲ス然ルニ時既ニ午ヲ過クルヲ以テ一旦散會更ニ午後會議ヲ開クヘシ

午後零時十七分開場

午後第一時三十分開場

○議長

午前ノ續會ヲ開キ二十四番ノ修正說ヲ以テ問題ト爲ス

○二十四番山口 尙芳

政府今本按ヲ布告セハ明治八年第百二十二號達究

民一時救助規則及ヒ同十年第六十二號布告凶歲租稅延納規則ヲ廢

スルモ敢テ救助ノ道ヲ絶ツニアラス即チ從前ニ倍スル金額ヲ支出

シテ以テ不虞ノ災害ヲ救フノ盛意ナリ而シテ全額ノ内三十萬圓ヲ

中央儲蓄金ト爲シ大藏卿之ヲ管掌スルモノハ不虞中ノ不虞ニ備フ

ルモノトス其不虞ノ時機ニ方リ小屋掛料或ハ食料ヲ給シ一般ノ究

民ヲ賑恤スルノ精神ナルトキハ其人民儲蓄ノ賦課法モ亦何ソ土地

ヲ有スルモノ、ミニ限ランヤ故ニ本官修正ノ如ク一般平等ノ賦課
法ヲ設ケ而シテ其取捨ハ府縣會ノ決議ニ任セハ可ナラントスルナ
リ

○一番玉乃 世履

二十四番ノ修正ハ或ハ理アルニ似タルモ請フ再思セヨ

抑々第一條ト第六條トハ相照應シタルモノナラスヤ然ルニ該說ノ

如クシハ其救助ヲ受クルノ手續キハ前後照應シタル第六條ニ至テ

甚タ困難ヲ生ス可シ何トナレハ第六條ハ一般ニ賦課シタルモノヲ

以テ救助スルニアラス救助ヲ受クルノ種類異ナレハナリ斯ク論シ

來レハ實ニ漫然タル修正ト謂ハサルヲ得ス二十四番ハ獨リ地租ヲ

納ムルモノニ賦課ス可ラスト云ト雖是亦第一條第六條ヲ熟讀セ

ハ其說ノ當ラサルヲ知ルヘシ蓋シ第一條ハ究民救助ノ綱領ヲ舉ケ

第六條ハ其救助ノ節目ヲ掲ケタリ然ルヲ土地ヲ有スルモノニ限ラ
 ストセハ其賦課法モ亦一般ノ究民ニ及ホサ、ルヲ得ス果シテ然ラ
 ハ酷ニ非スシテ何ソヤ若カス酷法ヲ設ケテ究民ヲ苦シマシムルヨ
 リハ寧ロ至當ナル土地ヲ有スルモノニ賦課センニハ且第二條ニ於
 テ其賦課ス可キモノヲ定メサレハ第六條ニ至リテ困難ヲ生スルヤ
 知ル可キナリ是ヲ以テ本官ハ二十四番ノ修正ヲ不可トス

○二十四番山口 尙勞

本官ノ修正モ亦前後照應セサルニ非ス其獨リ土地
 ヲ有スルモノニ課ス可ラサル理由ハタトヒ土地ヲ有セサルモ巨萬
 ノ富ヲ重ヌルノ豪族アリ但豪富ト云モ明日身家ヲ保ツ能ハサルノ
 災害ニ遭遇スルヤ未タ料ル可ラス其料ルヘカラサルノ不虞ニ備ヘ
 シト欲シテ本按ヲ要スルニ非スヤ且第一條ニ食料小屋掛料ノ如キ

ハ一般ノ究民ヲ救助スルモノニシテ農具料種穀料等ハ獨リ農者ニ
 限レリ然ルニ第二條ニ至テ土地ヲ有スルモノニ限ルト爲スハ何ノ
 意ナルヤ解スヘカラス苟モ本按ハ三千五百萬人ノ不慮ノ災害ニ遇
 フモノヲ救護セントスルノ主義ニアラスヤ果シテ本條原按ノ如ク
 シハ第一條ニ對シテ甚シキ不權衡ヲ生ス故ニ本官修正ノ如ク之ヲ
 府縣會ニ任シ該會ヲシテ其賦課ノ方法ヲ議セシメ以テ公儲スルヲ
 可トス且該公儲ノ金圓タル其誰ヲ救助スルヤ之ヲ未前ニ察スヘカ
 ラス因テ之ヲ課スルノ法モ亦例ヘハ茲ニ三人アリテ酒ヲ飲ムニ甲
 ハ壹升乙ハ五合丙ハ三合ノ酒量ナルモ未タ飲セサル前ニ於テ預メ
 其酒量ノ多寡ヲ計リ割合ヲ以テ酒料ヲ出スコヲ得サルト一般此公
 儲ナルモノモ其來日ヲ計ルヘカラサルヲ以テ之ヲ爲スニ非スヤ斯

ノ如ク論シ去レハ本官ノ説ノ不權衡ニアラスシテ却テ一番ハ其權衡ヲ失フモノト云シカ特ニ第六條ノ救助ハ一般人民ニ關スルモノナルニ更ニ一點ノ修正ヲ用ヒサルハ太々怪ムヘキナリ抑府縣會ハ府縣人民ノ代議者相集合シテ其管内ノ利害得失ヲ議スル所ナリ故ニ之ヲ該會ニ委セハ自ラ平均ノ方ヲ得ヘシ又布告按題號中東京市街ノ如キ云々トアルハ本府ハ土地ヲ有セサルモノ多キヲ以テノ故ナランカ然レモ他府縣ニ於テモ或ハ工或ハ漁ヲ以テ業トシ其趣ヲ殊ニスルノ地方ナシトセス是レ土地ヲ有スルモノ、ミニ課スルノ理由アルコトナキヤ瞭然タリ此ノ如ク論到セハ恐ラクハ一番モ亦了解アラシ

○一番玉乃
世履 本官ハ前陳ノ如ク一般ニ救フコトヲ得ヘクンハ之ヲ救ハ

ント欲スルモ其能ハサルハ奈何トモスヘカラス且本按ハ凶荒不虞ノ災害ニ罹リタル究民及ヒ地租ヲ納ムル能ハサルモノヲ救助スルノ主義ナレハ土地ヲ有スルモノニ多ク課スルモ其理由ナキニ非ス論者ハ其三千五百萬人ヲ救フ爲メノ方法ナルトキハ獨リ土地所有者ニ拘ハラズ一般ニ之ヲ課スヘシト云フモ之ヲ府縣會ニ委シ其賦課方法ヲ決議セシムルハ實ニ困難ナルヘシ但其方法モ亦決シテ爲シ能ハスト云フニハ非スト雖モ之カ簿册ヲ作り議會ニ付スルニ至ルハ一二月乃至數月ノ調査ヲ經サレハ之ヲ爲ス能ハス畢竟道フ可クシテ行ハルヘキモノニアラス此ノ如キハ恐ラク備ヲ求メテ却テ不備ヲ招クモノナラン之ヲ要スルニ舉テ府縣會ニ任スルモ甚々安カラサルヲ以テ本官等ノ修正モ亦止ヲ得スシテ茲ニ止マレルナリ

張セシハ全ク本按トハ其性質ヲ殊ニシ敢テ今日ノ議場ニ關係スル
 モノニアラス然ルニ二十四番ハ本官ヲ目シテ自論反對ト爲スハ驚
 カサルヲ欲スト雖正得ンヤ且本按ノ精神タル一戸十圓乃至二十圓
 ヲ補助スル爲メノ儲蓄ハ彼ノ營業稅雜種稅ノ如キ純益金ヨリ算出
 スルモノニアラス故ニ本官ノ該會議ニ方リ痛ク其制限ヲ解カント
 ヲ主張シタルハ今日議スル所ノ法按トハ其主旨殊ナレハナリ豈之
 ヲ斥シテ昨是今非ト謂ヘケンヤ

○二十四番山口 尚芳

一番ハ昨日ハ營業稅雜種稅ノ議按ニシテ今日ノ議
 按トハ性質ヲ異ニスト云ト雖モ昨日課稅ノ制限ヲ解カントセシハ
 深ク府縣會ヲ信スルニ出ルナラン昨日己ニ之ヲ信シ今日豈之ヲ信
 セサルノ理アラシヤ是本官カ一番ヲ目シテ自論反對ト爲ス所以ナ

リ二十八番ノ陳述モ亦甚タ難事ニシテ其主旨タル載スルモ載セサ
 ルモ同一ナリ本官再三陳述スル如ク本按ノ主意タル之ヲ補助スル
 ハ農工商ノ區別アルヲナシ既ニ之ヲ區別セサルトキハ之ヲ課スル
 モ亦獨リ土地所有者ニ限ル可ラス故ニ本官ハ土地ヲ有スルト有セ
 サルトニ拘ラス府縣會ヲシテ之ヲ斟酌シ其宜キヲ得タルモノヲ以
 テ之ニ賦課セシメント欲スルナリ又二十八番ノ說ニ全國一般地租
 改正法行ハル、ニ至ラハ却テ租稅延納規則ハ弊害アリト云フハ是
 政府ハ租稅延納ヲ許サス百事關係セスト云フノ意ニ過キス然ルニ
 本按ハ不虞ノ災害アルニ備フルモノニシテ二十八番ノ說トハ大ニ
 其精神ヲ殊ニシタトヒ地租改正後ト雖モ政府ハ決シテ之ヲ知ラス
 ト云フニアラス故ニ此事タル總テ府縣會ニ任セテ其適當ヲ得セシ

ムルニ如カストナスナリ

○議長 二十四番ノ修正ハ各條連帶ナルヲ以テ亦連帶シテ決ヲ取シ二十四番ノ修正ニ同意ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ヲ以テ二十四番ノ修正ハ消滅ス

○十七番秋月種樹 本按ハ前會ニ於テ全部ヲ修正委員ニ托セシヲ以テ大ニ修正ヲナシ其面ヲ革ムルカ或ハ廢按トモ爲ラシカト信セシニ豈料ランヤ僅々字句ノ修正ニ止マラントハ本官ハ素ヨリ廢按ノ說ナリ其精神ハ最モ第二條ニアリ蓋シ備荒儲蓄ノ事タル法律ヲ以テ之ヲ公儲シ之ヲ救助スルノ理アル可ラスト斷定セリ就中土地ヲ有スル云々ニ至テハ不可中ノ最モ不可ナルモノナリ何トナレハ其土地

ヲ有スルハ將タ何ニ依テ之ヲ有スルヤト問ハ、乃チ祖先ヨリノ勤勞ヲ積ミシカ或ハ自己ノ精勵ヲ以テ土地其他ノ財産ヲ増殖シタルモノナレハナリ然ルヲ公儲ヲ名トシ法律ヲ以テ之ヲ課出セシメントスルハ壓制ノ至ト云フモ恐ラク過言ニアラサルヘシ之ヲ約スレハ本按ノ如キハ救助法ノ爲メニ遂ニ人民ノ獨立心ヲ失フニ至ラン蓋シ國ノ獨立ハ人民ノ獨立ニ基ス將タ第八條ハ地方ノ集合力ヲ失ハシムルモノナリ

○議長 十七番ノ說ハ全按ノ廢棄論タルニ似タリ然ルニ第一條已ニ可決セリ該說ノ如キハ第三讀會ニ至リ例ニ遵ヒ發議スルモ亦遲カラサルヘシ

○十七番秋月種樹 諸第三讀會ヲ待テ發論ス可シ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第三條ニ移ル

○四番津田真道 本官ハ特別建議ヲ爲サントス本按ノ修正ハ僅々文字上

ニ過キサルヲ以テ本條以下連帶シテ決セハ可ナラントス

○二十五番河田景典 賛成

○議長 四番ニ関フ第三條以下第十一條ニ至ル迄ヲ一舉連帶シテ決

議ニ付スルノ建議ナリヤ立

○四番津田真道 然リ

○議長 四番ノ建議ニ同意ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 多數ヲ以テ四番ノ建議ニ決シ即チ第三條以下第十一條ニ至ルヲ問題ト爲ス

書記官森山茂 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條

政府ハ毎歳百二十萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條

政府ヨリ補助スル金額ノ内三十萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九十萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條

府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數處ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第六條

府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラ
ス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限

ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給

スルハ一戸十圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸二十圓

以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却セ

サレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條

各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ニ於テ壹ケ年ノ

儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルモハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内
務大藏兩卿ノ議定ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條

従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル
所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條

各府縣内儲蓄ノ金穀ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ検査スヘシ

第十條

府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金穀ノ出納ヲ内務大藏兩卿
ニ報告シ兩卿ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金穀ノ出納ヲ全國ニ公布ス
ヘシ

第十一條

此方法ハ二十ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ中央儲蓄金ニ殘餘アルトハ之ヲ各府縣ニ配付シ各府縣ニ存在スル儲蓄金穀ト共ニ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

○二十四番山口 尙芳 第七條ヲ修正セントス乃チ各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ニ於テ儲蓄金ヲ供用シ其不足ナルトハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ議定ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助ス可シト作ル可シ是第十一條中ニ中央儲蓄金ニ殘餘云ヤトアルヲ以テナリ且本按ノ如クセハ濫用ヲ恐ル、カ故ナリ

○一番玉乃 世履 本官ハ修正委員ナルモ已ニ原按第十一條ヲ修正セシニヨリ第七條モ亦二十四番ノ説ノ如クナラサル可ラス故ニ之ヲ賛成ス

ス

○二十六番伊丹 重賢 賛成

○議長 二十四番ノ修正ヲ以テ問題ト爲ス

○二十八番安場 保和 二十四番ノ説ハ實際上支障ヲ生スルヲ以テ本官ハ

飽迄本按ヲ可トセサルヲ得ス今中央政府ニ三十萬金ヲ管掌スルハ乃チ物ノ齊カラサルハ物ノ情ナルヲ以テ豫メ其不公平ヲ生スルヲ恐ル、ニヨルナリ倘シ修正説ノ如クンハ或ハ儲蓄ノ道ヲ塞クモノト云ハサルヲ得ス蓋シ三分二ト云フモ決シテ濫用スルモノニアラサルナリ

○二十四番山口 尙芳 二十八番ノ熱心スル如ク本官亦熱心シテ之ヲ修正セサル可ラス第十一條若シ下附原按ノ如クンハ何ソ第七條ノ修正